

三臺縣社會事業概要



始



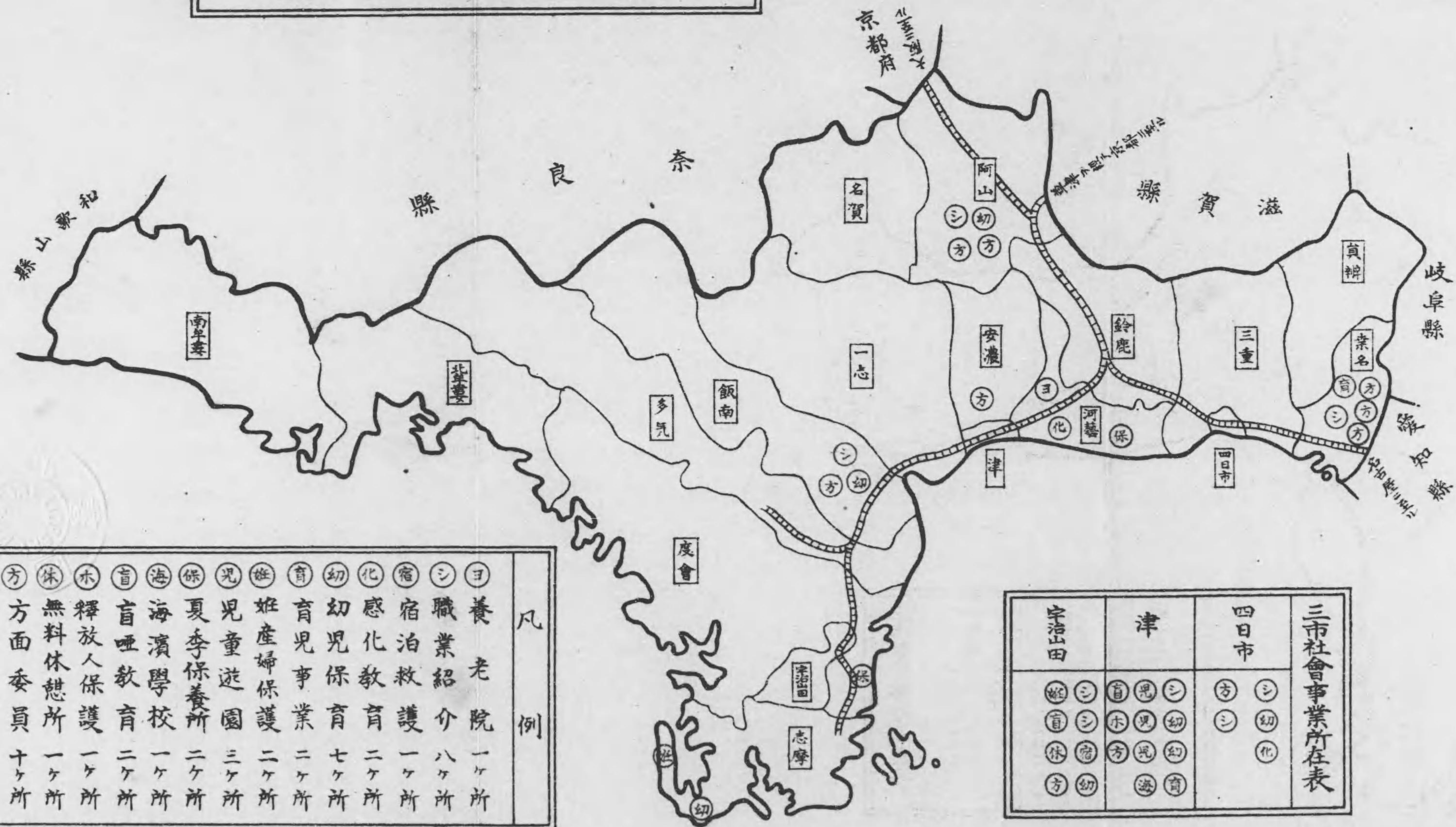
三重縣社會事業概要

大正三十三年八月 市圖



方	休	水	盲	海	保	児	産	育	幼	化	宿	シ	職
方面	無料	釋放	盲啞	海濱	夏季	児童	産婦	育児	幼児	感化	宿泊	職業	紹介
委員	休憇	人保	教育	學校	保養	遊園	保護	事業	保育	教育	救護	紹介	ハケ
十ヶ所	一ヶ所	一ヶ所	二ヶ所	一ヶ所	二ヶ所	三ヶ所	二ヶ所	二ヶ所	七ヶ所	二ヶ所	一ヶ所	ハケ	所

月八年三十正大 圖布分業事會社



凡例

方	休	木	盲	海	保	児	産	育	幼	化	宿	シ	目
方面委員十ヶ所	無料休憩所一ヶ所	释放人保護一ヶ所	盲啞教育二ヶ所	海濱學校一ヶ所	夏季保養所二ヶ所	児童遊園三ヶ所	産婦保護二ヶ所	育児事業二ヶ所	幼児保育七ヶ所	感化教育二ヶ所	宿泊救護一ヶ所	職業紹介八ヶ所	養老院一ヶ所

三市社會事業所在表

宇治山田	津	四日市
シ 方	シ 方	シ 方
シ 方	シ 方	シ 方
休 方	休 方	休 方
方 幼	方 幼	方 幼

535-21

分業事官社



序 言

本編ハ三重縣内ニ於ケル社會的施設ノ概要ヲ簡單ニ

摘録セラルナリ

本編ハ紙數ノ關係上社會事業ヲ其ノ目的ノ一部ト

各種公益法人ノ掲載ヲ見合セタリ

本編ノ摘録ニ漏レタルモノハ後日ヲ俟テ補フ

大正十三年九月

三重縣社會課

大正 13. 10. 22 内交



# 三重縣社會事業概要

## 目次

第一 三重縣社會課及關係規程.....	一
(イ) 社會課分掌事務.....	一
(ロ) 社會事業補助規程.....	三
(ハ) 感化救濟事業取締規程.....	四
(ニ) 公益法人取締規程.....	九
第二 救濟基金及經費.....	二
(イ) 慈善救濟基金.....	二
(ロ) 罹災救助基金.....	二
(ハ) 大禮記念恩賜賑恤基金.....	二
(ニ) 軍人援護資金.....	三
(ホ) 救育費.....	三
第三 調查研究並聯絡統一機關.....	四

### 第四 救貧防貧事業

- (イ) 社會事業調查會..... 一四
- (ロ) 方面委員..... 一五
- (ハ) 三重縣社會事業協會..... 三八
- (ニ) 三重縣佛教會..... 四七
- 一、窮民救助..... 五〇
- 二、行旅病人行旅死亡人取扱..... 五二
- 三、罹災救助..... 五六
- 四、施藥救療..... 七八
- (イ) 恩賜財團濟生會..... 七八
- (ロ) 無料巡回診療班..... 八〇
- (ハ) 結核早期診断..... 八二
- 五、養老..... 八三
- 三重養老院..... 八三
- 六、軍事救護..... 八五
- 七、人事相談..... 八八

### 八、職業紹介

- (イ) 桑名町職業紹介所..... 八八
- (ロ) 四日市市職業紹介所..... 八九
- (ハ) 津市職業紹介所..... 九〇
- (ニ) 宇治山田市職業紹介所..... 九〇
- (ホ) 松阪町職業紹介所..... 九一
- (ヘ) 上野町職業紹介所..... 九一
- (ト) 明照淨濟會職業紹介所..... 九二
- (チ) 船員職業紹介所..... 九二
- 九、宿泊救護..... 九三
- 明照淨濟會..... 九三
- 十、住宅供給..... 九六
- 十一、公設市場並簡易食堂..... 一一七

### 第五 兒童保護事業

- 一、感化教育..... 一一七
- (イ) 三重縣立國兒學園..... 一一八
- (ロ) 三重感化院..... 一二二

二、育兒並保育

- (イ) 津市保育園..... 一二三
  - (ロ) 三重保育院..... 一二三
  - (ハ) 四日市佛教保育院..... 一二六
  - (ニ) 白鳳愛兒園..... 一二八
  - (ホ) 宇治山市佛教團保育園..... 一三〇
  - (ヘ) 松阪愛護園..... 一三一
  - (ト) 三重濟美學院..... 一三五
  - (チ) 九華育兒院..... 一三八
  - (リ) 波切村立保育場..... 一四〇
- 三、妊産婦保護..... 一四一
- (イ) 宇治山田市妊産婦保護..... 一四二
  - (ロ) 越賀村産婦保養所..... 一四二
- 四、幼兒保護..... 一四四
- 津市兒童遊園..... 一四四
- 五、病兒及虛弱兒保護..... 一四五
- (イ) 日本赤十字社三重支部夏季兒童保養所..... 一四五
  - (ロ) 津市教育會夏季海濱學校..... 一四六

第六 教化事業

- 六、異常兒保護..... 一四八
- (イ) 私立三重盲啞學校..... 一四八
  - (ロ) 神都訓育院..... 一五二
- 一、矯風並生活改善..... 一五五
- 二、民力涵養..... 一五六
- 三重縣新民會..... 一六〇
- 三、地方改善..... 一六八
- 四、釋放人保護..... 一七六
- 三重縣保護會..... 一七六

第七 雜

- 如雪園..... 一七八

目次終



# 三重縣社會事業概要

## 第一 三重縣社會課

本縣は、東海地方課ニ於テ慈善救済ニ關スル事務ヲ取扱ヒ來リシカ時勢ノ推移ト民衆ノ自覺トニ依リ一層社會的事業ノ發達ヲ促シ殊ニ戰後ニ於ケル社會ノ趨勢ハ別ニ一課ヲ設ケテ各種社會事業ノ進捗統一ヲ期スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ大正九年六月新ニ社會課ヲ設置シ爾來斯業ノ發達獎勵ニ努メテ今日ニ及ヘリ其ノ分掌事務左ノ如シ

### 社會課分掌事務

- 一、公私社會事業團體ノ指導監督ニ關スル事項
- 二、公益法人ノ指導監督ニ關スル事項
- 三、恩賜賑恤、恤救ニ關スル事項
- 四、行旅病人旅行死亡人及精神病者ニ關スル事項
- 五、軍事救護ニ關スル事項

- 六、罹災救助ニ關スル事項
  - 七、民力涵養ニ關スル事項
  - 八、矯風事業ニ關スル事項
  - 九、感化教育ニ關スル事項
  - 一〇、釋放人保護ニ關スル事項
  - 一一、地方改善ニ關スル事項
  - 一二、生活改善ニ關スル事項
  - 一三、職業紹介ニ關スル事項
  - 一四、住宅改良ニ關スル事項
  - 一五、方面委員ニ關スル事項
  - 一六、財團濟生會ニ關スル事項
- 而シテ本縣ニ於テハ今後必要ナル未設社會的施設ノ設置獎勵ニ努ムルト共ニ既設事業ノ指導ニ努メ左記ノ補助規程ヲ設ケテ毎年約壹萬圓内外ノ範圍ニ於テ補助金ヲ下付シツ、又曩ニハ左記感化救濟事業取締規程並公益法人取締規程ヲ設ケテ之ヲ取締リ各種ノ事業逐年發達ノ道程ニ在リ

▼(ロ) 社會事業補助規程

三重縣令第七十號

社會事業費補助規程左ノ通定ム

大正九年十二月三日

三重縣知事 山 脇 春 樹

- 第一條 社會事業ノ改善ニ資スルノ目的ヲ以テ施行スル事業ニ對シ縣ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス
- 第二條 補助ヲ受ケムトスルモノハ施設ヲ要スル事由ヲ詳記シタル願書ニ左ノ書類ヲ添付シ毎年二月末日迄ニ差出シ豫メ補助ノ認可ヲ受クヘシ
  - 一、事業經營ノ狀況
  - 二、施設ノ事業カ工事ノ施行ニ屬スルモノナルトキハ設計又ハ仕様書、圖面及工事ノ着手並其ノ竣工豫定期限
  - 三、收支豫算書及前年度決算書但シ豫算ノ設ケナキモノハ收支見積計算書
- 第三條 補助ヲ受ケタル事業ハ其ノ施設ヲ變更シ又ハ之ヲ讓渡シ若ハ債務ノ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ豫メ知事ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 知事ハ隨時吏員ヲシテ補助ノ認可ヲ爲シタルモノニ就キ實地調査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル補助金ノ全部又ハ

一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一、詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルモノ

二、第三條ノ規定ニ違反シタルモノ

三、第四條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ同條ニ依リ發シタル命令ニ從ハサルモノ

第六條 本規程ニ依リ知事ニ送出ス願書又ハ届書ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由ス

郡市長ハ第二條ノ補助願書ヲ受理シタルトキハ事業ノ適否及效果ヲ調査シ意見ヲ附

シテ之ヲ傳達スヘシ

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年四月三重縣令第三十八號部落改善費補助規程ハ之ヲ廢止ス

三重縣令第四十號

感化救濟事業取締規程左ノ通定ム

大正七年九月十日

三重縣知事 長野 幹

第一條 本規程ニ於テ救濟所ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス私人ニ於テ一  
定ノ場所ヲ設ケ孤兒、遺兒、棄兒、幼兒、子守、不良少年、盲啞者、浮浪者、無職

業者若ハ免囚者等ニ對シ育兒、養育、感化、職業ノ授與、紹介其ノ他慈惠ノ趣旨ヲ  
以テ救濟ヲ爲スヲ目的トスルモノヲ謂フ

第二條 救濟所ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ履歷書、救濟所用地及建物ノ圖  
面ヲ添ヘ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

一、目的

二、名稱

三、位置

四、開始豫定ノ年月日

五、被救濟者ノ人員ヲ定メタルモノハ其ノ人員

六、存立時期又ハ閉鎖ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

七、事業執行ノ方法

八、管理及維持ノ方法

九、事務員ノ資格及任免ニ關スル事項

十、數人共同シテ設立スルモノハ其ノ共同員ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

第三條 救濟所ニ於テ第二條第二號及第四號ノ事項ヲ變更シ又ハ救濟所ヲ廢止シタル  
トキハ其ノ都度之ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第四條 救濟所ニ於テ第二條第一號第三號及第五號乃至第十號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 救濟所ニ於テ設立者ヲ増減シ若ハ之ヲ變更セムトスルトキ又ハ設立者以外ニ代表者ヲ置キ若ハ之ヲ交迭セムトスルトキハ新設者又ハ新代表者ノ履歷書ヲ添付シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 死亡其ノ他ノ事由ニ依リ設立者欠缺シタル場合ニ於テハ其ノ事由ノ發生後十日以内ニ其ノ相續人ヨリ事業ノ承繼者ヲ定メ其ノ者ノ履歷書ヲ添ヘ當廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ數人共同ノ事業ニ在リテハ他ノ設立者又ハ代表者ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 救濟所ニ於テハ被救濟者ノ名簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

- 一、氏名
- 二、生年月日
- 三、本籍地及族稱
- 四、戸主トノ續柄
- 五、收容ノ年月日理由（被救濟者ノ種別トモ）其ノ他本人ノ身上ニ關スル事項
- 六、未成年者ニ關シテハ就學種痘及親權者若ハ後見人ニ關スル事項
- 七、退所、死亡、逃亡等ノ年月日及其ノ理由

八、前各號ノ外必要ト認ムル事項

前項ノ名簿ハ被救濟者ノ種別毎ニ別冊ト爲シ又ハ一冊トシテ口座ヲ設ケ用紙一枚ヲ一人ニ専用スヘシ

第八條 被救濟者ヲシテ作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ各被救濟者ニ就キ勞役時間及收得金額ヲ明細ニ登錄スヘシ

第九條 救濟所ニ於テハ毎事業年度歲入歳出豫算及決算ヲ調製シ豫算ハ決定後十日以内ニ決算ハ年度終了後一月以内ニ當廳ニ届出ツヘシ  
豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ  
決算ヲ届出ツルトキハ併テ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

- 一、事業ノ狀況
- 二、前年度中ニ於ケル處務ノ要件
- 三、年度末現在財産目錄
- 四、賛助員、協賛員、其ノ他名稱ノ如何ニ拘ラス繼續シテ金員ヲ融出スル者ノ年度末現在數

第十條 救濟所ニ於テハ出納帳簿ヲ備ヘ金錢及物品ノ出納ヲ明細ニ登錄スヘシ

第十一條 知事ハ何時ニテモ官吏、吏員ヲシテ救濟所ノ事業及會計ヲ検査セシムルコト

アルヘシ

第十二條 救濟所ニ於テ其ノ目的以外ノ行爲若ハ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ設立認可ノ條件ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲アリト認ムルトキハ其ノ事業ノ改善若ハ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 救濟所設置ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ目的、名稱、位置、設立者若ハ代表者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ、救濟所ノ停止ヲ命シ若ハ認可ヲ取消シ又ハ解停ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス告示事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十四條 本規程ニ依リ提出スヘキ書類ハ總テ設立者又ハ代表者若ハ相續人等ヨリ之ヲ提出スヘシ

前項ノ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

第十五條 救濟所ニシテ他ノ法令ニ依リ設置スルモノ及自己ノ業務ニ從事セシムル者ノ爲ニスルモノニハ本規程ヲ適用セス

#### 附 則

第十六條 本規程ハ大正七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本規程施行ノ際現ニ救濟所ヲ設置セルモノハ本規程施行ノ日ヨリ三十日以内

ニ設立ノ年月日設立者及代表者ノ履歷書並第二條ノ事項ヲ具シ當廳ニ届出ツヘシ  
第十八條 一定ノ救濟所ヲ設ケタルモノト雖寄附金又ハ會員其ノ他公衆ノ捐資ニ依リ第一條ニ掲クル事業ヲ經營スルモノニ對シテハ本規程ヲ適用ス

#### ▼(二) 公益法人取締規程

三重縣令第四十一號

公益法人取締規程左ノ通定ム

大正七年九月十日

三重縣知事 長 野 幹

第一條 本規程ニ於テ公益法人ト稱スルハ民法第三十四條及民法施行法第十九條ニ依ルモノヲ謂フ

第二條 公益法人ハ其ノ設立登記ヲ了シタル日ヨリ十日以内ニ左ノ事項ヲ當廳ニ届出

ツヘシ第二號及第三號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

一、登記ヲ了シタル日

二、登記ヲ爲シタル事項

三、一定ノ場所ニ於テ事業ヲ施行スルモノニ在リテハ其ノ位置

四、設立以前既ニ爲シタル事業アルトキハ其ノ種類及功程

五、財産目錄

六、社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

孤兒、遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ヲ教育スル法人ニシテ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ理事ノ履歷書ヲ添付スヘシ新ニ理事ヲ置キ若ハ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第三條

本縣外ニ於テ設立ノ許可ヲ受ケタル公益法人ニシテ新ニ本縣内ニ事務所ヲ設置シ若ハ事業ヲ開始シタルモノハ第二條第一項ノ事項ニ併セテ定款若ハ寄附行爲及主タル事務所ノ所在地ヲ届出ヘツシ

第四條

公益法人ハ左ノ事項ヲ其ノ都度當廳ニ届出ツヘシ

一、定款又ハ寄附行爲以外ノ諸規程

二、總會ノ議決事件

三、財産目録

四、理事以外ニ役員ヲ設ケタルトキハ其ノ職名及住所氏名並其ノ異動

第五條

一定ノ場所ヲ設ケ老幼疾病者、不具癡疾者、窮民不良少年若ハ免囚等ヲ適用ヲ救済スルヲ目的トスル法人ニ就テハ感化救済事業取締規程第七條及第八條ノ規程

第六條

公益法人ハ毎事業年度歳入歳出豫算ヲ調製シ豫算ハ決定後十日以内ニ決算ハ

年度終了後一月以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ

決算ヲ届出ツルトキハ併テ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

一、法人ノ目的タル事業ノ狀況

二、前年度中ニ於ケル職務ノ要件

三、社團法人ニ在リテハ年度末現在社員ノ員數

第七條

本令ニ依ル届出事項中他ノ法令又ハ指令ニ依リ別ニ主務官廳ノ許可ヲ受クヘキモノ及報告スヘキ事項ハ更ニ届出ツルヲ要セス

第八條

公益法人ノ設立其他ニ關シ主務大臣又ハ當廳ニ提出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ但シ主務大臣ノ許可ヲ申請スル場合ハ總テ申請書ニ通ヲ提出スルコトヲ要ス

附 則

第九條

本令ハ大正七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十條

本令施行ノ際現ニ存スル公益法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一項第四條第一號及第四號ノ事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ

## 第二 救濟資金及經費

### ▼(イ) 慈惠救濟基金

明治三十年一月ノ御大喪ニ際シ地方慈善救濟ノ御思召ヲ以テ金八千三百圓ヲ下賜セラレタルヲ以テ之ヲ基金トシ縣ハ同三十九年迄毎年金四千圓ヲ支出シテ増殖ヲ圖リ其ノ後大正元年ノ御大喪ニ際シ更ニ金九千百圓御下賜ノ恩命ニ浴シタルヲ以テ之ヲ基金ニ加ヘ之ニ依リテ生スル利子ノ中金壹萬參千圓内外ヲ一般ノ社會事業補助並獎勵費ニ支出シツ、アリ大正十三年七月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金四拾四萬八千五百八拾六圓九拾七錢五厘

### ▼(ロ) 罹災救助基金

明治三十二年三月法律第七十七號ヲ以テ罹災救助基金法ノ實施セララル、ニ及ヒ從來ノ備荒儲蓄法ニ依リテ積立テタル儲蓄金ヲ受ヘレ之ヲ特別會計トナス、而シテ市町村罹災救助資金補助方法ヲ設ク毎年參萬圓ノ範圍ニ於テ蓄積額ト同額ノ補助ヲ與ヘ該基金ノ蓄積ヲ獎勵シツ、アリ(別項罹災救助欄參照) 大正十三年七月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金參百參拾貳萬七百七拾四圓參拾參錢

### ▼(ハ) 大禮 恩賜 賑恤 金

記念

大正四年十一月御即位大典ニ際シ特ニ賑恤ノ思召ヲ以テ下賜セラレタル金壹萬五千貳百圓ヲ特別會計ニ依リ管理蓄積シ此ノ基金ヨリ生スル利子並前記慈惠救濟基金ヨリ毎年受入ル、金額貳千圓内外ヲ以テ賑恤ノ資ニ充テ明治七年十二月太政官達恤救規則ニ該當セサル窮民ヲ救助ス(別項窮民救助欄參照) 大正十三年七月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金壹萬五千參百七圓拾錢五厘

### ▼(ニ) 軍人援護資金

明治三十九年八月本縣ニ配付セラレタル帝國軍人援護會殘餘金四萬參千圓ヲ特別會計トナシ該基金ヨリ生スル利子ノ内一年約參千圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シ大正六年十月公布ノ軍事救護法ニ該當セサルモノ若ハ同法ニヨリ救護ヲ受クルモ尙生計ヲ支持シ能ハサルモノ、救護ヲ同會ニ委託ス(別項軍事救護欄別表參照) 大正十三年七月末ノ該資金現在額左ノ如シ

一金八萬參千五百七拾參圓四拾錢八厘

### ▼(ホ) 救 育 費

明治三十二年三月法律第九十三號ヲ以テ行旅病人及行旅死亡人取扱法公布以來一般會計ニ依リ毎年豫算ヲ定メ取扱フ(別項行旅病人行旅死亡人取扱參照) 而シテ大正十三年度該豫算額左ノ如シ

### 第三 調查研究並聯絡統一機關

#### ▼(イ) 社會事業調查會

大正九年六月社會課設置ト共ニ社會事業ノ調查審議機關トシテ社會事業調查會ヲ設ケ各種社會事業ノ聯絡ヲ圖リ兼テ斯業ニ關スル調查研究ヲ爲シツ、アリ規程左ノ如シ  
三重縣告示第二二九號

社會事業調查會規程左ノ通定ム

大正九年六月八日

三重縣知事 山 脇 春 樹

第一條 社會事業調查會ハ知事ノ監督ニ屬シ社會事業ニ關スル事項ヲ調查審議ス

第二條 調查會ハ會長一名副會長一名及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ內務部長副會長ハ警察部長委員ハ知事官房主事內務部各課長及警察部各課長ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外知事ハ必要ニ依リ官吏々員及學識經驗アル者ノ中ヨリ委員ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理シ會長事故アルトキハ副會長之ヲ代理ス

第五條 調查會ニ幹事ヲ置キ委員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 調查會ニ書記ヲ置キ官吏々員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第七條 調查會ハ毎月二回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時開會スルコトアルヘシ

#### 附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

#### ▼(ロ) 方面委員

縣下ノ市街及同接續地ニハ相當多數ノ細民住居スルヲ以テ方面委員制度ヲ布キ之カ調査並救濟ヲ爲サムトシ大正十二年六月二十二日左記方面委員設置規程ヲ發布シ同時ニ執務心得、取扱事項概目、設置規程實施內規ヲ定メ左記方面ニ七十八名ノ委員ヲ囑託セリ而シテ本年度豫定事業ノ一タル他府縣本制度視察ノ爲委員十八名ヲ本年五月二日大阪府及岐阜縣ニ派遣セリ尙引續キ全委員ヲ順次派遣スヘキ計畫ニシテ第一回總會ハ本年度內ニ開催ノ豫定ナリ

設置地域名

津 市

設置年月日

大正十二年十二月二十七日

委員數

一〇名



宇治山田市	同	日	一五名
四日市市	同	日	六名
桑名郡桑名町	同	日	一二名
同 大山田村	同	日	三名
同 益生村	同	日	二名
安濃郡新町	同	日	二名
阿山郡上野町	同	日	一二名
飯南郡松阪町	同	二月十二日	一二名
阿山郡城南村	同	大正十三年三月十二日	四名
計			七八名

右ニ要スル經費ハ特別會計タル慈惠救濟費ヨリ支出シ本年度豫算貳千圓ヲ計上セリ然レトモ各委員ニ對シテハ何等手當ヲ支給セス全部無報酬ニテ精神的ニ活動ヲ仰キ設置以來日尙淺キニ不拘相當ノ成績ヲ收メツ、アルノ狀況ナリ

三重縣告示第二百五十八號

三重縣方面委員設置規程左ノ通定ム

大正十二年六月二十二日

三重縣知事 柴田善三郎

- 第一條 社會狀態及生活狀態ヲ調査シ其ノ改善向上ヲ圖ル爲テ必要ト認ムル地方ニ方面委員ヲ設置ス
- 第二條 方面委員ハ篤志者、市町村吏員、警察官吏、學校關係者、神職、宗教家及社會事業關係者等ノ中ヨリ郡市長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ囑託ス
- 方面委員ハ名譽職トシ其ノ任期ヲ定メス
- 第三條 方面委員ヲ設置スヘキ地方及其ノ員數ハ別ニ之ヲ定ム
- 一地方ニ二名以上ノ方面委員ヲ置キタル場合ニ於テハ其ノ一名ヲシテ事務ノ連絡ヲ圖ラシム
- 第四條 方面委員ノ職務左ノ如シ
- 一、一般社會生活ノ實狀ヲ調査シ之カ改善向上ノ方法ヲ攻究スルコト
  - 二、特ニ必要アルモノニ付テハ戶別的ニ其ノ生活狀態ヲ調査シ之ニ對シ匡濟方法ヲ講スルコト
  - 三、各種社會事業機關トノ連絡ヲ保チ之カ利用ノ途ヲ講シ其ノ目的ノ達成ニ助力スルコト

- 四、社會事業ノ施設上必要ナル事項ニ關シ意見ヲ知事ニ提出スルコト
- 五、其ノ他特ニ委嘱セラレタル事項ノ調査實行ニ當ルコト

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

方面委員執務心得

- 一、方面委員ハ方面委員設置規程第四條ノ事項ヲ調査又ハ實行スル爲隨時分擔地域内ヲ巡視シ又ハ家庭ノ訪問ヲ爲スコト
- 二、方面委員ハ常ニ關係官公衙、各宗教機關、各種公共團體、社會事業諸機關ト密接ナル聯絡ヲ保チ一般社會狀態及生活狀態ノ真相ヲ知悉スルニ努ムルコト
- 三、方面委員ハ職務ノ性質ニ鑑ミ其ノ舉措ニ注意スルハ勿論家庭訪問ニ際シテハ懇切叮嚀ヲ旨トシ苟モ不快ノ念ヲ抱カシメサル様留意スルコト
- 四、方面委員ノ取扱事務ハ多ク他人ノ身上ニ關スル事項ナルヲ以テ秘密ヲ嚴守スルコト
- 五、方面委員ハ左ノ簿冊ヲ備ヘ其ノ時々記入整理ヲ爲スコト
  - 一、調査臺帳(カード式)
  - 一、事務日誌
  - 一、文書綴

(第一號樣式)

調査票ハ一世帯ニ付三通ヲ作製シ其ノ一通ハ市役所町村役場ニ提出シ一通ハ郡役所ヲ經テ縣ニ送付シ一通ハ自ラ之ヲ保管スルコト

記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ之カ加除訂正ヲ爲シ町村役場及郡市役所ヲ經テ縣ニ通報スルコト

- 六、方面委員ハ其ノ取扱ヒタル件數ヲ種類別トシ毎年六月、十二月ノ末日ヲ期シ翌月十日迄ニ町村役場及郡市役所ヲ經テ知事ニ報告スルコト (第二號樣式)
- 七、方面委員ニ對シ生活育兒其ノ他諸般ノ事項ニ付助力ヲ申出タル者アル場合ニ於テハ懇切ニ事情ヲ聽取シ機宜ノ方法ヲ講シ相當機關ニ紹介斡旋スルハ勿論必要アルトキハ進テ相當ノ指導助力ヲ爲スコト
- 八、方面委員退職ノ場合ハ直チニ其ノ取扱事務並第五項ニ規定スル保管文書ヲ後任者ニ引繼クコト

方面委員取扱事項概目

- 一、生活狀態ノ調査
  - 分擔地域内ノ左記ニ屬スルモノニ付テハ其ノ生活狀態ヲ調査シ調査票ニ登録スルコト
  - イ、第一種ニ屬スルモノ

獨身ニシテ自活シ得サル者、獨身ニアラサルモ扶養者ナク自活ノ途ヲ得サル者及疾病其ノ他ノ事由ニ依リ自活困難ナル者

ロ、第二種ニ屬スルモノ

辛ウシテ自活シ得ルモ一朝事故ニ遭遇スルトキハ忽チ自活困難ニ陥ル虞アルモノ

### 二、生活ノ保護

イ、生計困難ナル者ニ對シテハ其ノ實狀ヲ調査シ之ヲ除去スルノ方法ヲ攻究スルコト

ロ、軍人家族遺族及廢兵ニシテ生計困難ナル者アル場合ハ軍事救護法ニ依ル救護及軍人援護資金等ノ救助ヲ受ケシムルコト

ハ、老衰、幼弱、不具、癡疾等ノ爲自活シ能ハサル者アルトキハ其ノ扶養ニ付親戚

故舊ニ謀リ若ハ隣保市町村ヨリノ救助方法ヲ考究シ尙足ラサルトキハ恤救規則

大禮 紀念 恩賜賑恤基金規程ニ依リ救濟其ノ他適當ナル方法ヲ以テ生活ノ途ヲ講スルコト

ニ、懶惰ノ風ニ染ミ遊逸徒食シテ勞働ヲ厭ヒ誠實業務ニ從事スルヲ欲セス爲ニ貧困トナリ又ハ貧困トナル虞アル者ニ對シテハ懇切ニ説諭ヲ加ヘ之カ善導ニ努力ス

### ルコト

ホ、失業者ニ付テハ其ノ狀態及思想ニ留意シ慰安督勵ヲ加ヘテ其ノ惡化ヲ防キ職業紹介機關等ト謀リ其ノ他適當ノ方法ニ依リ就職口ヲ得セシムルコト

ヘ、釋放人ニ付テハ釋放後親族近隣等ノ之ニ對スル仕向及本人ノ思想行動ニ留意シ常ニ刑務所保護機關職業紹介機關等ト連絡シ改過遷善ノ實ヲ擧ケシムルコト

ト、常ニ生計上餘裕ナキ者ニ對シテハ副業ノ斡旋獎勵等ニ依リ收入増加ノ途ヲ指示シ貯蓄其ノ他ノ方法ニ依リ恒産ヲ有セシムル様誘導スルコト

チ、高利ノ借財ニ苦ム者ニ對シテハ低利ニ借替方ヲ斡旋スルコト

リ、救濟ヲ爲ス要アル場合ハ可成金品ノ施與ヲ避ケ己ムヲ得ス之ヲ爲ス場合ニ於テハ濫救ニ陥ラサル様注意スルコト

ヌ、簡易生命保險規約貯金產業組合等ニ加入セシメ又ハ郵便貯金銀行貯金ヲ爲ス様勸告斡旋ヲ爲スコト

### 三、兒童並少女ノ保護

イ、妊婦產婦アルトキハ産前産後ニ於テ醫師又ハ產婆ノ診療ヲ受ケシムルハ勿論必要ト認メタルトキハ相當注意ヲ與ヘ母子ノ健康ヲ圖ルコト

ロ、幼兒ノ爲生業ヲ妨ケラル、者又ハ幼兒ノ保護救養ヲ充分ニ爲スコト能ハサル者

アルトキハ之カ保育ヲ相當機關ニ委託セシムル等適當ノ手段ヲ講スルコト  
 ハ、育兒ニ關シ母姉ノ知識乏シキ者ニ對シテハ育兒方法ニ付相當注意ヲ與フルコト  
 ハ、繼子貫子里子私生兒ニ對シテハ特ニ營養狀態ニ意ヲ拂ヒ養育不適當又ハ虐待ヲ  
 受クル者アルトキハ父兄ニ相當注意ヲ加ヘ尙不充分ナルトキハ相當手段ヲ講ス  
 ルコト

ホ、棄兒遺兒迷兒ノ保護ニ關シテハ相當ナル手段ヲ講スルコト  
 ヘ、義務教育未就學兒童ニ對シテハ公費就學獎勵金ノ交付其ノ他遺産家宗教家等ノ  
 篤志ニ訴フル等適當ナル方法ヲ講シ就學セシムルコト

ト、不良少年少女浮浪少年少女犯罪少年少女並精神病白痴盲啞低能不具癱疾等ノ兒  
 童又ハ少年少女ノ保護方法ヲ講スルコト

#### 四、戶籍ノ整理

イ、内縁ノ夫婦私生兒等變態的家庭關係ノ者アルトキハ届出ノ世話ヲ爲スコト  
 ロ、出生届未了ノ者ニ對シテハ届出ノ世話ヲ爲スコト

ハ、無籍者ノ發見ニ努メ就籍セシムルコト

ニ、寄留者ノ整理ヲ爲スコト

#### 五、社會衛生

イ、家庭訪問ニ際シ患者アルコトヲ發見シタルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ又貧困  
 ノ爲醫師ノ診察ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ濟生會赤十字社其ノ他相當  
 救療機關ニ紹介斡旋ヲ爲スコト

ロ、種痘ノ濟否ニ注意シ且癩結核トラホーム患者アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ  
 又相當機關ト聯絡ヲ保チ法令ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト

ハ、部内ノ住宅上地下水等特ニ不良ナルカ其ノ他一般衛生上改善ヲ要スル事項ニ對  
 シテハ機宜ノ方法ニ依リ之カ改善ノ途ヲ圖ルコト

#### 六、雜件

イ、貧家ノ子弟ニシテ學業特ニ優秀ナルモ進テ就學シ得サル者ニ對シテハ父兄ノ相  
 談相手トナリ公共ノ育英資金ノ交付ヲ請ヒ又ハ篤志者ニ訴フル等之カ解決ニ努  
 ムルコト

ロ、不良住宅ノ改良ニ努ムルコト

#### 方面委員設置規程實施內規

第一條 方面委員一人ノ受持世帯數ハ大凡三百戸ヲ標準トシ事情ニ依リ五百戸迄増加  
 スルコトヲ得其ノ設置地域及員數ハ當該市町村長ノ意見ヲ聽キ知事之ヲ定ム

第二條 方面委員ニハ調査表用紙、名刺、手帳、門標徽章及提灯ヲ交付ス

第三條 各方面ニ於ケル事務ノ聯絡統一ヲ圖ル爲毎年一回縣内方面委員ノ總會及毎年數回各地方方面委員ノ會合ヲ開ク

第四條ノ一 方面委員總會ニ出席スル場合又ハ知事ニ於テ出張ヲ命シタル場合ハ旅費ヲ支給ス

前項ノ旅費額ハ三重縣給與規程第十一條旅費額第一表中二等月俸八拾五圓以上ニ相當スル額トシ其ノ支給ノ方法ハ三重縣旅費支給規程ヲ準用ス但定額以内ニ於テ打切支給ヲ爲スコトアルヘシ

第四條ノ二 前條ニヨリ旅費ノ支給ヲ受ケサルモノニ對シテハ手當トシテ一日金貳圓以內支給スルコトアルヘシ

備考 縣内旅行ノ場合ニハ管内、縣外旅行ノ場合ニハ管外額ヲ支給スルモノトス

第五條 方面委員ノ事務ヲ處理スル爲社會課ニ主任者一名ヲ置ク

第六條 方面委員病氣轉居其ノ他己ムヲ得サル事情ノ爲執務スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ郡市長ニ届出ツヘシ

郡市長ハ前項ノ届出ヲ受ケ若ハ方面委員更迭ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ事情ヲ調査シテ囑託ノ解除ヲ知事ニ申請スルト同時ニ後任者ヲ推薦スヘシ

生活票記入注意

一、生活票記入

生活票ノ記入ハ必ス墨又ハ「インキ」ヲ以テスルコト

二、世帯

イ、世帯ニハ普通世帯ト準世帯トノ二種アルモ生活票ノ世帯トハ普通世帯ヲ意味スルモノトス

ロ、普通世帯トハ住居及家計ヲ共ニスル家族ノ集團ヲ云フ

ハ、一人ニテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者モ亦一ノ普通世帯トス

ニ、家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者ハ住居ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帯トス

ホ、住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ家計ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帯トス

ヘ、間借自炊ヲ爲セル者ハ別ノ普通世帯トス

三、年齢

年齢「呼ビ年」ヲ記入スルコト

四、職業

職業ハ農工商等ノ如ク總稱ニ依ラスシテ如何ナル種類性質ノ職業ナリヤ一見直ニ知

リ得ル様細別シ日常ノ稱呼ニ基キ記入スルコト

五、本業副業ノ別  
本業トハ主トシテ一身ヲ委スルモノヲ稱シ其ノ區分判明ナラサルトキハ收入額ノ多  
キモノヲ以テ本業ト定ムルコト

六、職業所得  
一定ノ職業ヲ有セス單ニ恩給手當年金等ノ收入ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ同欄ニ恩給  
手當年金等ト附記シ其ノ收入額ヲ記入スルコト又官衙傭人或ハ職工等ノ如ク一定ノ  
賃銀ヲ受クル者ハ其ノ制度ニヨリ日給又ハ月給額ヲ、收入不定ノモノニ就テハ一ケ  
年ノ收入見積額ヲ記入スルコト

七、教育程度  
文字ナキ者 (無)

假名ヲ知ル者 (假名)

尋常中途退學 (尋退)

尋常卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者 (尋卒)

高等小學中途退學 (高退)

高等卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者 (高卒)

中學中途退學 (中退)

中學校卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者 (中卒)

八、嗜好

嗜好物中酒ニ付テハ特ニ其ノ一日ノ飲量ヲ記入スルコト

九、宗教及貧困原因

別ニ示シタル分類ニヨルコト

一〇、記入事項ナキ欄ハ斜線ヲ以テ閉鎖スルコト

一一、裏面備考欄記入事項

(イ) 一家生活ノ狀況

(ロ) 非現住家族ノ氏名職業並其ノ生活狀況

(ハ) 失踪者ノ氏名

(ニ) 家族ニアラサル同居者ノ氏名職業

(ホ) 戸籍未整理ノ家族ニ付テハ世帯主トノ續柄及其ノ整理シ得サル理由

(ヘ) 私生子庶子ニ付テハ内縁ノ夫婦間ニ生レタル者ト其ノ他ノ者トノ區分

(ト) 犯罪者ニ付テハ犯罪ノ種類年月日刑期罰金額等

(チ) 宗教ニ非サルモ宗教ニ類似ノ信仰若ハ迷信ヲ有スルモノハ其ノ旨ヲ記入スルコト

〔貧困原因〕

- (1) 個人的關係
  - 精神的 { 賭博・情慾ノ亂用・飲酒・浪費・  
惡習慣(怠惰・不規律)無教育  
(技術拙劣無能)
  - 生理的 { 虛弱・不具・疾病(住宅不良・非  
衛生的職業其他)老衰遺傳性  
(花柳病盲啞聾癩)瘋癲白痴
- (2) 家族的關係 { 係累過多・主働者ノ死亡・失踪・入監・  
離婚・家族ノ疾病又ハ死亡家政ノ拙劣  
(戶主・主婦)家庭ノ不和
- (3) 職業的關係 { 商業又ハ事業ノ失敗・失業・轉業・投機
- (4) 社會的關係 { 物價騰貴・勞働需要ノ缺乏・教育ノ缺  
陷・耕地不足・親戚部落ニ對スル失費  
ノ過多・生活上ノ上進
- (5) 自然的關係 { 天災地變(地震・暴風・洪水旱魃・大火  
災・虫害・霜害・降雹)地理的關係(土  
地不良・氣候ノ不順)
- (6) 其他ノ原因 { 不時ノ災難・他人ノ債務保證・高利ノ  
負債・分家・其ノ他

宗教

一、佛 教

(リ) 扶養義務者ノ扶養額及公私團體ヨリ受クル救助金ノ如キハ其ノ金額並救助ヲ受ク  
ル團體若クハ個人名救助ヲ開始セラレタル年月日等ヲ記入スルコト

眞宗、禪宗(臨濟宗、曹洞宗、黃蘗宗) 淨土宗(融通念佛宗、時宗) 日蓮宗、眞言  
宗(新義眞言宗、眞言律宗) 天臺宗、律宗、法相宗、華嚴宗

一、神 道

神道、禊教、大社教、天理教、金光教、黑住教、修成教、扶桑教、神習教、大成教  
實行教、神理教、御嶽教

一、キリスト教

日本聖公會、日本洗禮教會、日本基督教會、其他

# 生活票

市〇

年 月 日 調

方面 認印

第 種

(第一號樣式) 表

世帯主名	住所	市郡	町大字	方面		認印		
				市郡	町大字	市郡	町大字	
職業	職所得	勤情	教程度	嗜好	宗教	信厚	仰薄	犯罪
本職	副業	勤	程度	嗜好	宗教	信厚	仰薄	犯罪
年 齡	業 業	勤 情	教 程 度	嗜 好	宗 教	信 厚	仰 薄	犯 罪
名	業 業	勤 情	教 程 度	嗜 好	宗 教	信 厚	仰 薄	犯 罪
主病	業 業	勤 情	教 程 度	嗜 好	宗 教	信 厚	仰 薄	犯 罪
世帯主	業 業	勤 情	教 程 度	嗜 好	宗 教	信 厚	仰 薄	犯 罪

家族状況	資 産		負 債		資 困 原 因	
	坪	歩	割	割	主	副
宅地	坪	歩	割	割	主	副
耕地	坪	歩	割	割	主	副
雑地	坪	歩	割	割	主	副
家屋	坪	歩	割	割	主	副

住宅坪数	住 宅 状 况		借 借		同居者ノ有無
	整	數	貸	借	
坪	整	數	貸	借	

住宅坪数	住 宅 状 况		借 借		同居者ノ有無
	整	數	貸	借	
坪	整	數	貸	借	

備 考

裏







告報容內扱取員委面方


三七

附 郡 縣 重 三 月 年 正 大

月	日	要	項	細	目	摘	要

【第二號樣式】

【乙】

三六

▼(ハ)三重縣社會事業協會 (三重縣內務部社會課內)

三八

縣内ニ於ケル社會事業ノ聯絡統一ヲ圖ル目的ヲ以テ大正六年十一月二十五日創立シ當初  
三重縣慈善協會ト稱セシカ大正九年八月三重縣社會事業協會ト改稱ス現ニ二十一箇團體  
ノ會員ヲ有シ會長ニ知事副會長ニ內務部長ヲ推舉ス大正十二年十二月地方改善ニ資スル  
目的ヲ以テ更ニ本會ニ融和部ヲ設ケ國費ヨリ金參千圓ノ補助ヲ受ケ別途會計トシテ彼此  
ノ接近融和ヲ圖リツ、アリ本會々則並本年度豫算及融和部本年度豫算並設立以來施行事  
業ノ主ナルモノ左ノ如シ

三重縣社會事業協會々則

- 第一條 本會ハ三重縣社會事業協會ト稱ス
- 第二條 本會ハ事務所ヲ三重縣內務部社會課ニ置ク
- 第三條 本會ハ三重縣内ニ於ケル感化救濟其ノ他ノ社會事業相互並社會事業ト一般社  
會トノ聯絡ヲ圖リ且其ノ健全ナル發達ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、毎年數回懇談會ヲ開クコト
  - 二、社會事業ニ關スル講演會ヲ開催スルコト

- 三、社會事業ト特志家トノ聯絡ヲ圖ルコト
- 四、社會事業ヲ指導誘掖シ且ツ其ノ經營方法ヲ補助スルコト
- 五、社會事業ニ關スル行政ヲ翼賛スルコト
- 六、其ノ他役員會ノ議決ニ依リ必要ト認メタル事項
- 第五條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ前年度中ノ事務及會計ニ關スル報告ヲ爲シ其ノ他  
必要ナル事項ヲ議決ス
- 第六條 本會ハ會員ヲ分チ特別會員及通常會員ノ二種トス特別會員ハ本會ニ功勞アル  
者及學識名望アル者又ハ特別出費其ノ他ノ方法ニ依リ本會ノ事業ヲ援助スル者ノ中  
ニ就キ役員會ノ議決ヲ經テ推薦ス  
通常會員ハ會費トシテ毎年金五圓ヲ納ムルモノトス
- 第七條 本會ノ會員タラント欲スル者ハ住所氏名ヲ記シテ申出ツヘシ感化救濟其ノ他  
社會事業ニ關スル團體ニシテ本會ノ會員タラムト欲スル者ハ其ノ團體名稱及所在地  
ヲ記シ代表者ノ名ヲ以テ申出ツヘシ  
會員ノ住所氏名又ハ團體ノ名稱所在地若ハ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨申  
出ツヘシ退會セムトスルトキハ其ノ旨届出ツヘシ
- 第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

三九

- 一、會長 一名
- 二、副會長 一名
- 三、理事 五名

理事中常務理事一名ヲ置ク

會長、副會長及理事ヲ以テ役員會ヲ組織ス

役員會ニ於テハ豫算決算其ノ他重要ナル事項ヲ議決ス

役員會ノ議長ハ會長之ニ當リ其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第九條 會長ハ三重縣知事ヲ推舉ス

副會長ハ三重縣內務部長ヲ推舉ス

理事ハ總會ニ於テ之ヲ選舉ス

常務理事ハ理事ノ互選ニ依ル

第十條 選舉ニ依ル役員ノ任期ハ二年トス

役員中ニ缺員ヲ生シ補缺ノ必要アルトキハ補缺選舉ヲ行フ

補缺員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ處理ス

第十二條 本會ニ評議員若干名ヲ置ク

第十三條 評議員ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ囑託ス

評議員中官公吏ノ職ニ在ル者ノ任期ハ其ノ在任期間中トス

評議員ハ本會ノ重大ナル事項ニ關シ會長ノ諮問ニ答申スルモノトス

第十四條 本會ハ必要ニ應シ主事ヲ置ク主事ニハ手當ヲ給スルコト得

主事ハ會長之ヲ任免ス

主事ハ役員ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十五條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、會費

二、補助及寄附ノ金品

三、其ノ他ノ收入

第十六條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 本會則ノ施行ニ必要ナル細則ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

附 則

第十八條 従前ノ會則ハ大正九年十月二日限リ之ヲ廢止ス  
三重縣社會事業協會十三年度歳入歳出豫算

第一 歳	八〇〇〇〇
第二 會 雑 收 入	一〇〇〇〇〇
第三 補 助 金	八〇〇〇〇
第四 下 付 金	四〇〇〇〇
第五 繰 越 金	一、〇〇〇、〇〇〇
第六 寄 附 金	一、二〇〇、〇〇〇
合 計	二、五〇〇、〇〇〇
第一 歳 出	二〇〇、〇〇〇
第二 會 議 費	二〇〇、〇〇〇
第三 講 習 會 費	八〇〇、〇〇〇
第四 獎 勵 費	四〇〇、〇〇〇

融和部大正十三年度歳入歳出豫算

第五 宣 傳 費	四〇〇、〇〇〇
第六 印 刷 費	一〇〇、〇〇〇
第七 積 立 金	二〇〇、〇〇〇
第八 豫 備 費	二〇〇、〇〇〇
合 計	二、五〇〇、〇〇〇
第一 歳 入	一、五〇〇、〇〇〇
第二 寄 附 金	三、〇〇〇、〇〇〇
第三 國 庫 補 助 金	三、〇〇〇、〇〇〇
第四 雜 收 入	二〇〇、〇〇〇
合 計	七、五二〇、〇〇〇
第一 歳 出	七、〇〇〇、〇〇〇
第二 融 和 部 諸 費	五二〇、〇〇〇
合 計	七、五二〇、〇〇〇

三重縣社會事業協會重要記事

- 一、大正六年十一月二十五日 發會式ヲ津市會議場ニ於テ舉行ス
- 一、大正七年五月十一日 三重縣廳ニ於テ臨時總會ヲ開キ會則其ノ他諸件議定
- 一、大正七年八月二十五日 一身田町高田派本山專修寺ヨリ金壹百圓寄付
- 一、大正七年九月二十五日ヨリ四日間 大谷瑩韶帥ヲ聘シ上野町、松阪町、桑名町、四日市市ニ於テ社會事業ニ關スル講話會開催
- 一、大正七年十一月四日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金壹百圓下付
- 一、大正七年十二月十七日 津市ニ於テ本會紀念講演會開催來會者八百名
- 一、大正七年十二月十六日 本縣技師松浦圓四郎氏ハ金壹百五拾圓ヲ同十七日野呂廣吉氏ハ金五拾圓ヲ本會ニ寄附
- 一、大正九年一月八日 津市慈善音樂會發起人總代白藤剛雄ヨリ金百八拾圓寄附
- 一、大正九年四月八日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金七百圓下付
- 一、大正九年四月二十一日 私立三重盲啞院ハ本會ヨリ獨立シ内務部長ヲ院長ニ推戴シ主事明野觀海ヲシテ經營ノ任ニ當ラシム
- 一、大正九年五月五日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金五百圓下付

- 一、大正九年五月二十六日 報德銀行取締役木村授彌太氏ヨリ同行創立滿十周年記念トシテ金貳拾圓寄附
- 一、大正九年八月六日 本會名稱「三重縣慈善協會」ヲ「三重縣社會事業協會」ト改稱
- 一、大正九年十月二日 臨時總會ヲ縣廳ニ開催シ會則其ノ他ノ件審議
- 一、大正十年二月十一日付ヲ以テ宮内省ヨリ御下賜金壹百圓内務大臣ヨリ獎勵金壹百圓下付
- 一、大正十年四月四日付ヲ以テ三重縣知事ヨリ本會ニ對スル事業助成ノ爲金參百圓下付
- 一、矢吹文學士ヲ聘シ左ノ箇所ニ於テ社會事業宣傳講演會開催  
五月二十九日 午後一時ヨリ 桑名町本統寺  
同日 午後七時ヨリ 四日市市光運寺  
同日 午後一時ヨリ 宇治山田市欣淨寺
- 一、大正十年六月十六日付ヲ以テ事業助成ノ爲本縣ヨリ更ニ本年度ニ於テ金貳百圓下付
- 一、大正十一年二月十一日付ヲ以テ宮内省ヨリ御下賜金貳百圓内務大臣ヨリ獎勵金壹百圓下付
- 一、大正十一年三月九日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金五百圓下付
- 一、大正十二年二月十一日 宮内省ヨリ御下賜金五百圓内務省ヨリ助成金五百圓下付

- 一、大正十二年五月五日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金五百圓下付
- 一、大正十二年五月十五日 松阪町松阪病院長久留春三氏ヨリ金百四拾圓寄附
- 一、大正十二年十一月十四日 高田本山專修寺ヨリ全壹百圓寄附
- 一、大正十二年十二月五日 本會ニ融和部ヲ設ク
- 一、大正十三年一月十四日ヨリ五日間中央社會事業協會ト聯合シ縣會議場ニ於テ左記ノ講師ヲ招聘シテ講習會ヲ開催シ二百三名ニ講習證書授與

京都帝國大學教授文學博士 喜田貞吉  
 廣島高等師範學校校長 吉田賢龍  
 京都帝國大學教授法學博士 山本美越乃  
 大谷大學教授 山邊習學

- 一、大正十三年六月二十日ヨリ八日間協同會、縣佛教會ト聯絡シ左記講師ヲ聘シテ三重縣會議場ニ社會政策講習會ヲ開催シ四百四十四名ニ講習證書授與
- |          |      |
|----------|------|
| 社會事業協會理事 | 田澤義鋪 |
| 同        | 永井亨  |
| 文學博士     | 矢吹慶輝 |
| 法學博士     | 渡邊鐵藏 |

農學博士	佐藤寬治
東京地方職業 紹介事務局局長	遊佐敏彦
文學博士	椎尾辨匡
産業能率研究所長	上野陽一

- 一、大正十三年六月二十八日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金六百五拾圓下付
- ▼(三) 三重縣佛教會 (三重縣內務部社會課内)

時勢ノ推移ト思想ノ動搖トニ鑑ミ民衆ノ教化社會ノ改良ニ貢獻セシムル目的ヲ以テ各郡市ニ佛教團ノ組織ヲ勸奨シ各宗派聯合ノ下ニ社會的ニ活動ヲ促シタルカ大正九年末ニ至リ漸ク之カ成立ヲ見ルニ至リタルヲ以テ縣ハ之カ統一聯絡ノ要アルヲ認メ大正十年三月縣佛教會ヲ創立シ縣知事之カ會長タリ

創立以來日尙淺ケレトモ講習會ヲ開催セルコト二回孰レモ盛會理ニ其ノ目的ヲ達ケ其ノ他總會縣外社會事業視察並補助各郡市佛教團事業費補助巡回活動寫真講演會等ヲ舉行セリ大正十三年度ニ於テハ既ニ協調會縣社會事業協會ト合同シテ社會政策講習會ヲ縣會議場ニ開催シ尙引續キ巡回講演會事業費補助等ヲナス筈ナリ

三重縣佛教會々則



第一條 本會ハ三重縣佛教會ト稱シ縣内各都市佛教團ヲ以テ組織ス  
第二條 本會ハ佛教各宗派相協力シテ尊皇愛國ノ誠ヲ輸シ民衆ノ教化社會ノ改良ニ努ムルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ事務所ヲ三重縣廳社會課内ニ置ク

第四條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達セムカ爲官公署諸團體ト聯絡提携シテ左ノ事業ヲ行フ

一、民力涵養地方改良ニ關スル事業

二、人心ノ指導教化ニ關スル事業

三、適切ナル社會的の事業

四、智徳ノ修養ニ關スル事業

五、其ノ他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條 本會ニ會長一名、副會長三名、顧問若干名、理事若干名、代議員若干名、幹事若干名ヲ置ク

會長ハ一切ノ會務ヲ綜理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

顧問ハ會長ノ諮問ニ答ヘ重要ノ會務ニ參與ス

理事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

代議員ハ各都市佛教團ヨリ一名ヲ選出シ會長ノ召集ニ應ジ本會ノ豫算ヲ議決シ決算ヲ認定シ其ノ他重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長以下ノ命ヲ承ケ事務ヲ處理ス

第六條 會長ハ三重縣知事、副會長一名ハ三重縣内務部長ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ役員ハ會長之ヲ囑託ス

第七條 本會ノ經費ハ縣補助金、郡市佛教團ノ負擔金及一般ノ寄附金品ヲ以テ之ヲ支辨ス

第八條 本會ハ毎年一回代議員會ヲ開クモノトス

第九條 會長ハ本則施行ノ爲必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十條 本則ノ修正改廢ハ代議員會ノ決議ニ依ル

附 則

第十一條 本則ハ大正十年三月十四日ヨリ之ヲ施行ス

三重縣佛教會大正十三年歲入歲出豫算

一、繰 越 金 入

四五〇、〇〇〇

二、會	六、七、五、〇〇〇	五〇
三、雜	五、〇〇〇	
四、縣	一、〇〇〇、〇〇〇	
五、寄	五、〇〇〇	
合	二、一三五、〇〇〇	
一、事	四〇〇、〇〇〇	
二、會	一五〇、〇〇〇	
三、事	一、五二〇、〇〇〇	
四、豫	六五、〇〇〇	
合	二、一三五、〇〇〇	
計		

### 第四 救貧防貧事業

#### 一、窮民救助

本件ニ關シテハ前記大禮記念恩賜賑恤金ノ都ニ記載シタル明治七年十二月太政官達恤救規則

ニ該當スルモノト大正四年十一月御即位大典ニ際シ下賜セラレタル大禮記念恩賜賑恤金ニ依リ救助スルモノトアリ而シテ現ニ右救助金ニ依リテ救助シツ、アル人員並救助額ヲ郡市別ニ示セハ左ノ如シ

郡市名	恤救規則ニ依ル救助 人員	救助年額	大禮記念恩賜賑恤金ニ依ル救助 人員	救助年額
桑名郡	六	五六二、五	一	八七、六
員辨郡	八	七九二、五	四	三三一、二
三重郡	三	二八九、五	九	一、二三六、〇
鈴鹿郡	一	六三五、〇	二	一四四、〇
河越郡	四	六〇、〇	二	二七八、四
安濃郡	一	六〇、〇	一	七二、〇
一志郡	六	五四二、五	六	八九二、八
飯南郡	四	三九二、〇	一	一、九一一、六
多氣郡	一	八〇、〇	五	二四八、四
會郡	一	八〇、〇	四	七四八、八
合				

阿山郡	四名郡	志摩郡	北牟婁郡	南牟婁郡	津市	四日市市	宇治山田市	計
四	五	一	一	一	一	一	一	四六
三二一、〇	四六三、〇	八〇、〇	一一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	七〇、〇	八〇、〇	四、四七八、〇
三	五	三	二	一	二	四	一	六五
二三五、二	四四四、〇	三一九、二	四五一、二	一七二、八	六七四、四	二四四、八	八、四九二、四	五二

二、行旅病人及行旅死亡人取扱

本件ニ關シテハ前記教育費ノ部ニ記載シタル明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ基キ明治四十一年八月三重縣令第七十五號ヲ以テ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツ、アリ而シテ大正十二年ノ取扱數ハ六十六名ニシテ之ヲ郡市別ニ擧クレハ左ノ如シ

桑名郡	員辨郡	三重郡	鈴鹿郡	河藝郡	安濃郡	一志郡	飯南郡	多氣郡
一	三	三	四	四	二	二	二	二
度會郡	阿山郡	名賀郡	志摩郡	北牟婁郡	南牟婁郡	津市	四日市市	宇治山田市
六	一	一	一	二	二	一	五	二

行旅病人行旅死亡人及其同伴者救護及取扱ニ關スル規程

第一條 市町村長ニ於テ行旅病人行旅死亡人取扱法ニ依リ行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタルトキハ其顛末ヲ知事ニ報告スヘシ  
被救護者引取ヲ爲ス者ナキトキハ現ニ救護ヲ爲ス市長村長ニ於テ引繼キ其ノ事務ヲ取扱フ可シ  
前二項ノ場合ニ於テ救護ノ日數二十日以上ニ及フトキハ二十日毎ニ其狀況ヲ報告スヘシ

第二條 前條ノ救護若ハ取扱ニ要スル費用ハ特別ノ事情アル場合ノ外ハ左ノ限度ニ依

ニ供シタル物件ハ左ノ場合ニ限リ競賣ニ付セサルコトヲ得

一、有價證券ハ時價以上ニ賣却シ得ヘキトキ

一、其ノ他ノ物件ハ見積價格拾圓未満ナルトキ

第五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ノ買却

代金ハ其ノ救護若ハ取扱費ノ繰替金ニ戻入スヘシ

第六條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ係ル費用ノ辨償ヲ求ムル

トキハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、費用計算書

一、支拂金領收書

一、遺留品又ハ不用品賣却調書

一、其ノ他ノ關係書類

第七條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第四條第十一條ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキ

ハ計算書ヲ添付シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

### 三、罹災救助

本件ニ關シテハ前記罹災救助基金ノ部ニ記載シタル明治卅二年三月法律第七十七號罹災

救助基金法ニ基キ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツ、アリ

罹災救助ニ關スル規程

罹災救助ニ關スル内規

三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程

市町村罹災救助資金補助方法

市町村罹災救助資金補助請求手續

市町村罹災救助資金監督規程

#### (1) 罹災救助ニ關スル規程

(大正八年三月三十一日  
縣訓令甲第五號)

第一條 災害ニ際シ罹災救助基金ノ支出ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ狀況ヲ詳具シ直ニ之ヲ報告スヘシ

第二條 罹災救助基金ノ救助ヲ請フ者アルトキハ市町村長ハ第一號乃至第八號書式ニ依リ食料其ノ他ノ仕譯書人員調書並資産及納稅調書ヲ差出スヘシ但町村長ハ所屬郡長ヲ經由スヘシ

第三條 罹災ノ狀況ニ依リ避難所、小屋掛、焚出及治療ノ救助ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ直ニ施行ニ着手シ同時ニ之ヲ報告スヘシ

ルヘシ其ノ救護ヲ公私ノ施設又ハ私人ニ委託シ費用ヲ要スルトキハ亦同シ

救護諸費

- 一、醫師診察料
- 一、同 手術料
- 一、同診察書料
- 一、藥 價

以上ノ諸費ハ其ノ郡市醫師會ノ決定額以內

- 一、療養所借入料 一日金貳拾錢以內
- 一、小屋掛料 一式金五圓以內
- 一、入院料 下等實費
- 一、食 料 一度金拾錢以內
- 一、看護人雇料 一人ニ付 一晝夜金七拾錢以內
- 一、產婆雇料 一人ニ付 一日金壹圓以內
- 一、療養ニ關スル必要品費 一日金參拾錢以內
- 一、雜 費 被服器具借入料其ノ他 一日金參拾錢以內
- 一、護送人夫賃 薪炭油等ノ諸費 一人ニ付 一日金七拾錢以內

送還諸費

- 一、宿泊料 一夜金壹圓五拾錢以內
  - 一、晝食料 一度金參拾錢以內
  - 一、汽車賃、汽船賃、車駕賃 下等實費
- 附添人ヲ要スルトキハ宿泊料、汽車賃、汽船賃、車駕賃ハ被救護者ト同額トシ尙日當金壹圓以內ヲ給ス

取扱諸費

- 一、屍體檢案及檢案書料 郡市醫師會決定額以內
- 一、屍體番人費 一人ニ付 一晝夜ニ付金壹圓以內
- 一、屍體運搬人夫費 一人ニ付 一日金壹圓五拾錢以內
- 一、假土葬費 一式金五圓以內
- 一、火葬費 一式金六圓以內
- 一、廣告料 實 費

第三條 官報若クハ新聞紙ニ公告ヲ爲スハ一回ヲ限度トシ看護人、產婆、送還附添人ハ各一人、護送人夫、屍體番人、屍體運搬人夫ハ各二人以內トス

第四條 行旅死亡人ノ遺留品及行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ノ用

ニ供シタル物件ハ左ノ場合ニ限り競賣ニ付セサルコトヲ得

一、有價證券ハ時價以上ニ賣却シ得ヘキトキ

一、其ノ他ノ物件ハ見積價格拾圓未満ナルトキ

第五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ノ買却代金ハ其ノ救護若ハ取扱費ノ繰替金ニ戻入スヘシ

第六條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ係ル費用ノ辨償ヲ求ムルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、費用計算書

一、支拂金領收書

一、遺留品又ハ不用品賣却調書

一、其ノ他ノ關係書類

第七條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第四條第十一條ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキハ計算書ヲ添付シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

### 三、罹災救助

本件ニ關シテハ前記罹災救助基金ノ部ニ記載シタル明治卅二年三月法律第七十七號罹災

救助基金法ニ基キ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツ、アリ

罹災救助ニ關スル規程

罹災救助ニ關スル内規

三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程

市町村罹災救助資金補助方法

市町村罹災救助資金補助請求手續

市町村罹災救助資金監督規程

(1) 罹災救助ニ關スル規程 (大正八年三月三十一日 縣訓令甲第五號)

第一條 災害ニ際シ罹災救助基金ノ支出ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ狀況ヲ詳具シ直ニ之ヲ報告スヘシ

第二條 罹災救助基金ノ救助ヲ請フ者アルトキハ市町村長ハ第一號乃至第八號書式ニ依リ食料其ノ他ノ仕譯書人員調書並資産及納稅調書ヲ差出スヘシ但町村長ハ所屬郡長ヲ經由スヘシ

第三條 罹災ノ狀況ニ依リ避難所、小屋掛、焚出及治療ノ救助ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ直ニ施行ニ着手シ同時ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 郡長又ハ市長ニ於テ前條ノ救助ヲ施行シタルトキハ第九號乃至第十三號書式ノ仕譯書及物品購買代金若ハ物件借入損料人夫賃等ノ請求書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ

第五條 食料被服小屋掛材料就業ニ要スル資料器具及學用品ノ救助ハ其ノ種類數量日數ヲ指定シ郡長又ハ市町村長ヲシテ之ヲ施行セシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ救助ヲ施行セシメタルトキハ郡長又ハ市町村長ハ物品購買代金ノ請求書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ但シ町村長ハ所屬郡長ヲ經由スヘシ

第六條 食料費被服費小屋掛材料費就業費及學用品費ヲ金錢ヲ以テ救助スルノ必要アリト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ理由ヲ詳具シ之ヲ申請スヘシ

前項ニ依リ金錢救助ヲ施行シタルトキハ第六號書式ニ依リ第一號乃至第五號仕譯書ニ基ク金錢領收書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ

第七條 罹災救助ニ際シ實費ヲ以テ支出スルモノニシテ其ノ材料又ハ賃金過當ナリト認ムルトキハ之ヲ減額若ハ削除スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號(一通)

食料仕譯書

一白米 何程

何市(町村)  
(戸主)

何 之 誰

此代金何程

外何名分

但壹石ニ付金何程(下米相場)

内

白米 何程

何 之 誰

但人員何人一人米何合何日分

白米 何程

何 之 誰

但、、、、

白米 何程

何 之 誰

但、、、、

右之通ニ有之候也

年 月 日

右

市(町村)長 何 之 誰 印

第二號(一通)

被服仕譯書

一被服何人分

此代金何程

但壹人ニ付金何程

內

被服何人分

被服何人分

被服何人分

右之通ニ有之候也

年月日

何市(町村)

(戶主)

何

外何名分  
之 誰

第三號(二通)

小屋掛材料仕譯書

一 小屋掛材料 家族三人以上何戶分  
同 三人未滿何戶分

右

市(町村)長 何之誰印

何市(町村)

(戶主)

何

之 誰

此代金何程

但家族三人以上ハ一戶金何程同三人未滿ハ一戶金何程

外何人

內

小屋掛材料 家族三人以上一戶分

同 同 半戶分

同 同 家族三人一戶分

同 同 人未滿一戶分

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町村)長 何之誰印

何市(町村)

何

外何名分  
之 誰

一 鐵 何 挺 代金何程 壹挺ニ付金何程

第四號(二通)

器具(又ハ學用品費)仕譯書



一鎌何挺同  
 一何々々同  
 計金何程同  
 同同同

何業

何之誰

一鎌何挺  
 一鎌何挺  
 一何々々

何業

何之誰

一何々々  
 一何々々  
 一何々々

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町村)長何之誰印

(農具ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取圖書ノ添付ヲ要ス)  
 第五號(二通)

資料仕譯書

何市(町村)

何之誰

外何名分

一種何程

此代金何程壹石ニ付何程ノ割

一何々々

此代金、、、、

一何々々

此代金、、、、

計金何程

内

種粃何程  
何々  
何々  
右之通ニ有之候也  
年月日

何之誰  
何之誰  
何之誰

市(町村)長 何之誰 印  
右  
(種穀ノ救助ヲ請フルモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

第六號(一通)

金錢領收書

一金何程

罹災救助費

内

金何程

食料費

但白米何程分一斗ニ付金何程

金何程

被服費

但被服何人分一人ニ付何程

金何程

小屋掛材料費

但小屋掛材料費家族三人以上又ハ三人未満

金何程

器具費

但何々何挺分一挺ニ付金何程

金何程

資料費

但種粃何程分一斗ニ付金何程

金何程

學用品費

但書籍文房具何人分一人ニ付金何程

右領收候也

年月日

何郡(市)町村大字番地

何之誰 印

第七號(一通)

人員取調書(他へ寄留又ハ他出不在者ハ除クヘシ)

何市(町村)

姓名

何年何月何日生  
 父 名  
 何年何月何日生  
 母 名  
 何年何月何日生  
 妻 名  
 何年何月何日生  
 長男 名  
 何年何月何日生  
 何 々  
 何年何月何日生

右之通相違無之候也

年月日

第八號(一通)

右  
 市(町村)長 何之誰 印

資産及納稅調書

何市(町村)

何之誰

- 一所有地(地種別)何反步地價金何程
  - 一建家(種類別)何棟建坪何程
  - 一所有金預金何程
  - 一何々(動産)何個見積價格何程
  - 一何々、々、
  - 一直接國稅一ヶ年納額何程
  - 一縣稅同上
- 右之通ニ有之候也
- 年月日

右

市(町村)長 何之誰 印

第九號(二通)

焚出諸費仕譯書

一金何程

何市(町村)ニ係ル焚出シ諸費

内

金何程

白米何程代

但何月何日ヨリ何月何日迄何日間現人員何人此延何人ニ付一日米何程

内

金何程

白米何程 壹石ニ付

金何程

白米何程 壹石ニ付

金何程

雜費

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人ニ付一日金何程

内

金何程

梅干何程代

但一升ニ付金何程

金何程

味噌何買目代

但壹貫目ニ付金何程

金何程

人足賃

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人一日金何程  
金何程  
但云々  
何々借入代  
何々

右之通相違無之候也

年月日

郡(市)長 何之某印

第十號(二通)

一金何程

小屋掛(或ハ避難所)諸費仕譯書

内

小屋掛費(或ハ避難所諸費)

金何程

人足何人一人ニ付金何程

金何程

大工何人一人ニ付金何程

金何程

木材何本一本ニ付金何程

金何程

竹 何束一束ニ付金何程

金何程

金何程

金何程

但何月何日ヨリ何日迄何日間一日ニ付金何程

右之通相違無之候也

年月日

第十一號(二通)

治療費仕譯書

一金何程

内

金何程

但何月何日ヨリ何日迄何日間何人分延日數何日一日金何程

但何藥何服分一服ニ付金何程患者何人何日分

繩 何東一束ニ付金何程

何 々、々、々、々、

建 家 借 入 代

何 々、々、々、々、

郡(市)長 何之 某 印

何市(町村) 罹災者治療費

醫師 手 當

藥 價

金何程

右之通相違無之候也

年月日

第十二號(二通)

運搬用具費仕譯書

一金何程

内

金何程

但延何輛分一輛ニ付一日金何程

金何程

但延何艘ニ付一日金何程

金何程

但云々

右之通ニ有之候也

年月日

何 々、々、

郡(市)長 何之 某 印

何市(町村)運搬用具費

荷車借入料

船借入料

何々借入料

郡(市)長 何之 誰 印

第十三號(二通)

人夫費仕譯書

一金何程

何市(町村)人夫費

内

人 夫 費

金何程

但延何人分一人ニ付一日金何程

右之通有之候也

年 月 日

郡(市)長 何之 誰 印

(2) 罹災救助ニ關スル内規 (大正八年三月三十一日 番外内訓)

第一條 罹災救助基金ヲ以テ救助ヲ爲スハ左ノ場合ニ限ルモノトス

一 市町村内總戸數十分ノ一以上若ハ市町村内戸數五十戸以上同一ノ災害ニ罹リ救助ヲ要スル者アルトキ

二 市町村内耕作地總反別五分ノ一以上災害ニ罹リタル場合ニ於テ收穫七分以上ヲ失ヒ稗穀ノ救助ヲ要スルモノアルトキ

三 海上其ノ他ニ於テ三十人以上同一ノ災害ニ罹リ資料又ハ器具ヲ亡失シ其ノ援助ヲ要スル者アルトキ

第二條 罹災者ニシテ直接國稅縣稅ヲ併セ年額五圓以上ヲ納ムル者ハ之テ救助セス但シ避難所ニ收容シ焚出ヲ給與シ及治療ヲ施スハ此ノ限ニアラス

前項ニ該當スル者ト雖其ノ生活狀態救助ヲ要スル者ト同一ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ得テ救助スルコトヲ得

(3) 三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程 (明治三十二年八月十一日 縣令第五十三號)

第一條 罹災救助基金ノ管理ハ左ノ規程ニ依ルヘシ

一 現金ハ縣金庫又ハ現金管守者ヲシテ之ヲ保管セシム但シ縣金庫ヲシテ保管セシムルトキハ擔保トシテ其ノ金額以上ノ國債證書勸業債券、日本興業銀行債券、農工債券、北海道拓殖銀行債券ヲ領置ス

二 國債證書其ノ他ノ財産ハ總テ縣廳ニ於テ保管ス

第二條 罹災救助ノ爲メ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費、學用品費、避難所費、小屋掛費、治療費、運搬用具費、人夫費ヲ支出スルハ左ノ程度ニ依ル

一 食 料 費 一人 一日

白米四合 雜費貳錢

但シ雜費ハ梵出ノ場合ニ限ル

二 被服費 一人

自五月至九月 金貳圓  
自十月至四月 金貳圓五拾錢

三 小屋掛材料費 一戸

家族三人以上 金拾參圓  
同 三人未満 金拾圓

但シ家屋災害ニ罹ルモ尙小屋掛ヲ營ム用ニ充ツヘキ幾許ノ古材ヲ存スルモノハ半額トシ家族人員ノ計算ハ十五歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人トシ同居ノ家族ハ之ヲ算入ス

四 就業費 一戸

金貳拾五圓以內

五 學用品費 一人

金壹圓五拾錢以內

六 避難所費  
避難掛費  
小屋掛費  
治療費  
運搬用具費  
人夫費

實費

第三條 罹災ノ狀況ニヨリ必要ト認ムル場合ニ在リテハ前條第一號及第六號ノ程度以內ニ於テ梵出ヲ爲シ又ハ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費及學用品費ハ金錢ヲ以テ救助スルコトヲ得

(4) 市町村罹災救助資金補助方法

第一條 市町村ニ於テ其ノ住民ノ災害ニ罹リタル者ヲ救助スル方法ヲ設ケ其ノ資金ヲ蓄積スルトキハ罹災救助基金ヨリ之ヲ補助ス

第二條 市町村罹災救助資金補助額ハ每年金參萬圓以內ニ於テ其ノ豫算ヲ定メ市町村ニ於テ其ノ年積立テタル金額ニ對シ同額以內ノ金額ヲ交付シ該資金ニ編入セシム但シ其ノ積立額カ縣ノ補助額ノ二十分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ一時ニ資金ノ全部ヲ積立ツル場合ニ在テハ補助ノ歩合ヲ減スルコトアルヘシ

第三條 罹災救助基金ノ貯蓄額ニシテ罹災救助基金法第三條ノ制限額ヲ下ルコトアルトキハ其ノ制限額以上ニ達スル迄補助ヲ停止ス

(5) 市町村罹災救助資金補助請求手續

第一條 市町村罹災救助資金補助方法ニ依リ補助ヲ受ケントスル市町村ハ其ノ年度ニ屬スル資金ノ蓄積ヲ了シタル後之ヲ請求スヘシ但シ第二條ノ期限ヲ過キ蓄積シタルモノニ在テハ次年度ニ於テ其ノ年分ト併セテ之ヲ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ別記書式ニ依リタル資金積立額計算書ヲ添付シ毎年十一月

十五日マテニ市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ差出スヘシ  
 第三條 郡長ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ集計表ヲ添付シ毎年十一月二十日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

(別記)

市町村罹災救助資金積立額計算書

一金

大正某年度積立豫定額

内

金

大正年月日一般會計ヨリ積立額

金

大正年月日同上(一回ニ積立タルトキノ例)

金

補助請求額

一金

大正某年度首罹災救助基金現在高

内

金

現金

金

預金公債社債券額面若干ノ原價

(6) 市町村罹災救助資金監督規程

第一條 市町村ニ於テ罹災救助資金ヲ蓄積スルトキハ左ノ定額ヲ最低限度トシ毎年度ノ蓄積額ハ條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

戸數五百戸未満ノ町村

千五百圓

戸數五百戸以上貳千戸未満ノ町村

參千圓

戸數貳千戸以上ノ町村及市

六千圓

第二條 市町村罹災救助資金ハ罹災救助基金法第二條ノ規程ニ該當セサル場合ニ於ケル罹災者ヲ救助スル費用ニ充ツルノ外之ヲ他ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 市町村罹災救助資金ヨリ生ズル收入ハ罹災救助費ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第四條 市町村罹災救助資金ノ元資ヲ費消スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其補充ノ方法ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 市町村罹災救助資金ノ蓄積額第一條所定ノ金額以上ニ達シタル市町村ニ於テハ其永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルカ爲若ハ天災事變等ノ爲メ市町村債ヲ起ス必要アル場合ニ限り知事ノ許可ヲ受ケ資金二分ノ一以内ノ金額ヲ一般會計ニ繰入ルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ補充方法ヲ定メ併セテ知事ノ許可ヲ受ヘシ



前項繰入金ノ補充ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ金額及年月日ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條 市町村罹災救助資金ハ特別會計トシ其ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

一 國債、地方債又ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、三重縣農工銀行ノ債券ノ募集

ニ應シ若ハ其ノ證券ヲ買入ル、コト

二 大藏省預金若ハ郵便貯金トナスコト

三 擔保ヲ徵シ確實ナル銀行ニ利付預ケトナスコト

第七條 市町村罹災救助資金ノ管理及支出ニ關スル方法ハ市町村ニ於テ之ヲ定メ市ニ

在リテハ知事町村ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

### 四、施藥救療

#### ▼(イ) 恩賜濟生會

明治四十五年五月財團濟生會ヨリ同會救療事業ノ實施ヲ依託セラレタルヲ以テ縣下公私立病院各開業醫及齒科醫師藥局ヲ開設セル藥劑師會ニ交渉ヲ遂ケ之カ實施方法ヲ定メ普ク其ノ恩惠ニ浴セムコトヲ期シ諸般ノ事務ニ從事セシムル爲ニ專務事務員ヲ置ク而シテ救療方法ハ警察官吏、或ハ市町村吏員ニ於テ其ノ必要アリト認ムルモノニ對シ治療券ヲ

交付シ病院又ハ醫師ニ治療ヲ受ケシム其ノ程度ハ貧困ニシテ醫藥ヲ得ルノ資力ナキ傷病者ヲ救濟スルモノニシテ大正元年度ヨリノ各郡市ノ救療患者ハ別表ノ如シ

救療患者表

郡市	年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一年
桑名	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
員辨	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三重	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
鈴鹿	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
河藝	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
安濃	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一志	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
飯南	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
多氣	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
阿度	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

名賀	志摩	北牟婁	南牟婁	津	四日市	宇治山田	計
七〇	四二	三三	三二	三六	四八	三七	六七〇
八八	三五	一六	四四	五二	六二	五九	九三五
九六	四八	一八	二四	三七	四八	五五	一、〇〇三
一〇〇	四六	二八	三〇	四八	四四	四四	一、〇四八
一三三	五二	三三	二二	四三	五五	五五	一、〇一五
一四二	五七	二三	一九	三三	四七	四七	一、一三六
一九〇	五三	三六	二三	二八	五八	五八	一、三四一
一八七	五五	一六	三三	六三	四〇	四〇	一、〇六八
二三三	二〇	三〇	カ	八五	三九	三九	一、〇八〇
一六八	四四	二二	七	七九	五三	五三	一、一四六
二二三	二四	一七	四	九〇	三七	三七	一、〇四九

八〇

▼(口) 無料巡回診療班

經營 日本赤十字社三重支部

日本赤十字社三重支部ニ於テハ夙ニ本施設ノ必要ヲ認メ大正十一年度ニ於テ津市、上野町、四日市市、桑名町、松阪町ノ五ヶ所ニ於テ春秋ノ二季之ヲ開催シ其ノ成績良好ナリシヲ以テ大正十二年度ニ於テ之ヲ各郡市ニ及ホサムトシ春季ニ於テ津市、員辨郡(阿下喜)桑名郡、三重郡(菟野)、四日市市、龜山町、尾鷲町、宇治山田市ノ八ヶ所ニ開催シ秋季ニ於テ久居町、名張町ニ開催セルモ關東地方ノ大震災ニ際會セルヲ以テ中止セリ

大正十三年度分春季ニ於テ上野町、名張町、安濃郡(村主村)、飯南郡(大石村)、多氣郡(三瀬谷村)、度會郡(五ヶ所村)、志摩郡(鶴方村)、津市、四日市市ノ九ヶ所ニ開催シ左記ノ成績ヲ示セリ尙本診療ハ毎年繼續シ本年九月十日ヨリ秋季ノ分ヲ開催スル豫定ナリ

診療人員

内全治セル者

未知ノ者

二、九二五名

九五四名

一、九七一名

職員 一班ノ職員ハ醫師一名、看護婦二名、調劑員一名、ヲ以テ組織シ事務員トシテハ附近ノ町村吏員奉仕的ニ從事シ調劑員ハ開催地附近ノ藥劑師ニ囑託ス

場所 役場、寺院、公會堂等ヲ利用ス

期間 一ヶ所一週間

施療患者 豫メ診療券ヲ印刷シテ郡市役所ニ配付シ郡市役所ニ於テハ大体標準ヲ(縣稅戶數割納付一人平均額ノ二分ノ一以下ノ者)定メ之ヲ交付ス右持參者ヲ患者ト認メ診療ヲ加フ閉鎖ニ際スルモ尙全治ニ至ラサル者ニ對シテハ處方箋ヲ與ヘ或ハ治療法ヲ教ヘ又ハ施藥等ヲ爲ス

大正十三年度豫算

八、四九〇、〇〇〇

▼(八) 結核早期診斷

經營 三重縣結核豫防協會  
位置 三重縣警察部衛生課内

創立 大正十年一月

組織 會員組織

職員 會長知事副會長三名理事二三名書記八名評議員若干名會員一八、二二〇名  
三重縣結核豫防協會ハ大正十年一月警察部衛生課内ニ創立セラレ以來年ヲ重ヌルコト三  
年會員並關係者ノ熱誠ナル努力ニ依リ豫定ノ計畫ニ隨ヒ順調ニ其ノ事業ヲ遂行シツ、ア  
リ即チ縣下各地ニ巡回活動寫真宣傳並衛生展覽會ヲ開催シ其ノ他ポスター、印刷物、標  
語ノ配付等、衛生思想及結核ニ關スル智識ノ普及啓發ニ努メ結核早期診斷所ヲ左記三十  
五ヶ所ニ設置シテ無料診斷ノ需ニ應シ一面結核病ノ蔓延状態ヲ窺知スルタメ其ノ一齊調  
査ヲ施行シツ、アリ  
大正十二年度結核早期診斷受診者ハ三百二十四名ニシテ非常ナル効果ヲ收メタリ右診斷  
所各郡市配置表左ノ如シ

結核早期診斷所名(三十五ヶ所)

結核早期診斷所配置表

郡市名	診斷所數	受診者數	郡市名	診斷所數	受診者數
桑名郡	一	一七	阿山郡	三	四五
員辨郡	三	六	名賀郡	三	一
三重郡	二	二〇	志摩郡	三	二一
鈴鹿郡	一	一〇	北牟婁郡	一	一
河藝郡	四	一一	南牟婁郡	一	一
安濃郡	一	一	津市	一	五五
一志郡	四	一九	四日市市	一	五二
飯沼郡	二	二七	宇治山田市	三	一四
多氣郡	二	六	合計	三五	三三四
度會郡	一	一九	大正十一年	二五	三八七

五、養老

▼(イ) 三重養老院

位 置  
事 業  
經 營  
職 員  
沿 革

河藝郡一身田町三番地  
養老事業

高田本山專修寺

院長玉野玄陵外理事四名、主事二名

高田派本山專修寺本事業ノ必要ヲ認メ財團法人十萬人講ノ出資金ヲ以テ經營スルニ決シ大正十年六月一日執事加藤忍嚴之カ設立ヲ申請シ知事ノ認可ヲ受ケ光信寺ヲ改造シ之ニ充ツ

現 況

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男女十四名ヲ收容シ宗教ヲ基礎トシテ何等拘束ヲ加ヘヌ朝夕自由ニ參詣休養等ヲ爲サシムル等精神的、肉体的慰安ニ努ム大正十三年度豫算左ノ如シ

創立以來ノ成績 收容者 男 十一 女 二十三 計 三十四名  
死亡者 男 六 女 十四 計 二十名

三重養老院大正十三年度歳入歳出豫算

第一 歳 入  
第一款 十萬人講出資金 三、〇九一、〇〇〇  
第二款 前年度繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇

第三款 助成金、寄附金及  
合 計 六三〇、〇〇〇  
四、七二一、〇〇〇

歳 出

第一款 事務費 一、〇〇〇、〇〇〇  
第二款 給養費 一、八四一、〇〇〇  
第三款 院舎借入修繕費 二二〇、〇〇〇  
第四款 積立金 一、三〇〇、〇〇〇  
第五款 豫備費 三五〇、〇〇〇  
合 計 四、七二一、〇〇〇

六、軍事救護

軍事救護法ノ趣旨精神ハ平時、戰時ノ兩時ニ於テ之カ克ク縣民一般ニ諒解セシムル必要アルヲ認メ機會アル毎ニ之カ宣傳ニ努ムルト共ニ救護ノ徹底ニ關シテハ屢次郡市長ニ通牒シテ遺憾ナカラシメ又時々係員ヲ派遣シテ其ノ實況ヲ具ニ調査セシムル外別ニ軍人援護資金中ヨリ金參千圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シテ本法ニ該當セサル要救護者ノ救

護ニ當ラシメツ、アリ

大正十三年七月末現在軍事救護狀況及軍人援護資金ニ依ル救護狀況左表ノ如シ

軍事救護法ニ依ル被救護者調(現金給與)

大正十三年七月末日現在

郡市	下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族		下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族		合計
	現役兵ノ家族	傷病兵ノ家族	下士兵卒ノ遺族	傷病兵ノ遺族	
	戸數	人員	戸數	人員	戸數
桑名	四	一、一八〇	一	一八〇	五
員辨	三	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	四
三重	九	二、二〇〇	一	二、二〇〇	一〇
鈴鹿	四	一、二〇〇	一	一、二〇〇	五
河濃	三	四、八八〇	二	二、〇〇〇	五
安志	三	一、三〇〇	一	五、二六〇	四
一志	三	四、七九〇	一	三、七三〇	四
飯南	三	七、七〇〇	二	二、〇〇〇	五
多氣	九	二、九一〇	三	六、〇〇〇	一二
度會	三	四、二三〇	一	〇、八〇〇	四
合計	四一	一、一八〇	一〇	一、一八〇	五一

阿山	名賀	志摩	北牟婁	南牟婁	津市	四日市	宇治	山田	計
一五	四	三	五	七	五	四	一	一	一五
四九	七	三	一四	三	一七	七	三	四	四九
六、七〇〇	一、〇一〇	三、九三〇	二、一四〇	三、〇〇〇	二、〇四〇	一、〇九〇	一、四〇〇	三、三〇〇	四六、五三〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三、二八〇
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一七
七	一	一	一	一	一	一	一	一	三六
二、七〇〇	九、八〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、七三〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一八	四	二	六	七	五	四	一	一	一七
五、六	七	四	一八	三	一七	七	三	一	一七
六、九七〇	一、〇一〇	五、一五〇	二、六四〇	三、〇〇〇	二、〇四〇	一、〇九〇	一、四〇〇	三、三〇〇	一七、五四八、三三〇

軍人援護資金救護人員表 (大正十三年七月末日調)

桑名郡  
員辨郡  
三重郡  
三重郡  
鈴鹿郡  
河藝郡

一三  
一  
三  
四

安濃郡  
一志郡  
飯南郡  
多氣郡  
度會郡

二  
二  
二  
二  
六

阿山郡	1	津市	15
名賀郡	1	四日市市	5
志摩郡	1	宇治山田市	2
北牟婁郡	2	合計	26
南牟婁郡	2		

八八

### 七、人事相談

本件ニ付テハ大正九年四月以降四日市、宇治山田兩警察署ニ於テ規程ヲ設ケ一般人事ノ相談ニ應シ其ノ後津、松阪、鳥羽、上野、桑名其他主ナル各警察署ニ於テ同様事務ヲ取扱ヒツ、アリ尙縣下各職業紹介所ニ於テモ同様相談ニ應シ就職希望者ニハ夫々適當懇切ニ斡旋シツ、アリ

### 八、職業紹介

勞務ノ需給調節並防貧、救貧的社會政策トシテ本施設ノ緊要ナルヲ認メ大正十年四月一日ヨリ縣下各市町村ニ右ノ事業ヲ開始セシメタルカ偶々同年四月八日職業紹介法公布セラレタルヲ以テ職業紹介法施行細則ヲ制定シ津市、四日市市、宇治山田市職業紹介所ニ

認可ヲ與ヘ宇治山田市明照淨濟會ニ許可ヲ與ヘ又一面本施設ノ普及獎勵ニ努メタル結果其ノ後桑名町、松阪町、上野町ニモ之カ設置ヲ見ルニ至リ何レモ相當成績ヲ舉ケツ、アリ

由來職業紹介所ハ各府縣知事之ヲ監督セルモ大正十二年三月三十一日ヲ以テ職業紹介法、同施行令、同施行規則ニ改正ヲ加ヘラレ中央及地方職業紹介事務局設置セラレ本縣ハ大阪地方職業紹介事務局ノ管轄ニ移リ同事務局ノ監督ヲ受ケツ、アリト雖本施設ハ縣當局トシテ等閑ニ附スヘキニアラサル重大事業ナルヲ以テ間接ニ之カ獎勵普及ヲ圖ルト共ニ既設紹介所ニ一段ノ改良進歩ヲ促シツ、アルノ狀況ナリ

#### ▼(イ) 桑名職業紹介所

位置 桑名町役場内  
 經營 桑名町  
 職員 所長清水亮外事務員一名  
 開始年月日 大正十三年一月十一日  
 大正十三年度豫算 一、三二〇、〇〇〇

#### ▼(ロ) 四日市職業紹介所

位 置 四日市市役所内  
 經 營 四日市市  
 職 員 所長渡邊章六外事務員二名  
 開始年月日 大正十一年三月三十一日  
 大正十三年度豫算 九三七<sup>月</sup>〇〇〇

▼(八) 津市職業紹介所

位 置 津市役所内  
 經 營 津市  
 職 員 所長佐田彌太郎外事務員二名  
 開始年月日 大正十一年十月一日  
 大正十三年度豫算 一、三四九<sup>月</sup>〇〇〇

▼(二) 宇治山田市職業紹介所

位 置 宇治山田市役所内  
 經 營 宇治山田市

職 員 所長光信亨外事務員一名  
 開始年月日 大正十一年三月三十一日  
 大正十三年度豫算 一、〇三五<sup>月</sup>〇〇〇

▼(木) 松阪職業紹介所

位 置 松阪町役場内  
 經 營 松阪町  
 職 員 所長中瀬森太外事務員二名  
 開始年月日 大正十三年六月二十一日  
 大正十三年度豫算 一、二一〇<sup>月</sup>〇〇〇

▼(ハ) 上野町職業紹介所

位 置 上野町役場内  
 經 營 上野町  
 職 員 所長澤島之助外事務員三名  
 開始年月日 大正十三年四月一日  
 大正十三年度豫算 七八五<sup>月</sup>〇〇〇

▼(ト) 明照淨濟會職業紹介所

位置 宇治山田市吹上町九〇番地  
 經營 明照淨濟會  
 職員 所長清水法隆外事務員二名  
 開始年月日 大正十一年三月三十一日  
 大正十三年度豫算 二四七、〇〇〇

▼(チ) 四日市船員職業紹介所

位置 四日市市稻葉町  
 經營 大日本海員掖濟會三重支部  
 職員 所長川松武治主任飯田基之亮  
 開始年月日 大正十二年二月一日  
 大正十三年度豫算 三、一一六〇、〇〇〇  
 右ハ船員職業紹介法ニ基キ大日本海員掖濟會三重支部四日市海員寄宿所ニ設備ヲ施シ事務ヲ取扱ヒツ、アリ

九、宿泊救護

▼(イ) 明照淨濟會

位置 宇治山田市吹上町九〇番地  
 事業 宿泊、救護、職業紹介  
 經營 有志會員  
 職員 會長清水法隆外理事一名事務員二名  
 沿革 大正元年八月明治大帝崩御ニ際シ聖德奉酬記念トシテ清水法隆、駒田圓應松本古月、井上又兵衛、森島誠諦氏等ノ發起ニテ創立シ清水氏ヲ代表者トシテ當初事務所ヲ宇治山田市欣淨寺ニ置キタリシカ大正二年四月二十五日現在ノ地ニ土地家屋ヲ買收シ失業者救濟ノ目的ヲ以テ宿泊救護並ニ職業紹介事業ヲ開始シ今日ニ及フ  
 現況 大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男女十二名ヲ收容救護シ職業紹介ト共ニ相當ノ成績ヲ舉ケツ、アリ尙本會ハ三重縣保護會支部トシテ釋放人ノ保護事業ヲ行ヒ傍ラ教化訓育事業トシテ毎月五ノ日ニ定期講演會ヲ開キ又知名ノ講師ヲ聘シテ臨時講演會ヲ開催シ尙每



月一日、十五日ニハ修養會、慰安會或ハ子供會等ヲ開キ其ノ他揭示傳道、  
文書宣傳等ヲ行ヒ専ラ本會趣旨ノ普及ニ努力シツ、アリ宿泊救護成績及大  
正十三年度豫算左ノ如シ

大正十二年宿泊救護成績

男 二〇五名 女 一六名 計 二二一名

創立以來宿泊救護成績

男 一、五〇九名 女 一一〇名 計 一、六一九名

創立以來ノ釋放人保護成績

男 六五八名 女 一七名 計 六七五名

創立以來ノ職業紹介成績

求人 男 一、一八八名 女 九一名 計 一、二七九名

求職 男 一、四四一名 女 三九名 計 一、四八〇名

就職 男 八八〇名 女 一九名 計 八九九名

明照淨濟會大正十三年度歳入歳出豫算

第一款 助成金 六五〇,〇〇〇

歳入

第二款	基金	利息	一七一,〇〇〇
第三款	會員	醜金	一五〇,〇〇〇
第四款	事業	收入	一,五一九,二〇〇
第五款	臨時	寄附	二〇〇,〇〇〇
第六款	雜收	收入	一〇〇,〇〇〇
第七款	經營者	支出	四〇二,八〇〇
合計			三,一九三,〇〇〇

歳出

第一款	事務所	費	四二六,八〇〇
第二款	職業紹介	所費	二四七,〇〇〇
第三款	宿泊	所費	一,八三〇,二〇〇
第四款	保護	費	一二〇,〇〇〇
第五款	教化	訓育費	一三〇,〇〇〇
第六款	火災	保險費	二九,〇〇〇
第七款	修繕	費	五〇,〇〇〇
第八款	積立	金	二〇〇,〇〇〇

第九款 借入金償還 一五〇、〇〇〇  
 第十款 豫備費 一〇、〇〇〇  
 合計 三、一九三、〇〇〇

### 十、住宅供給

住宅組合法實施以來設立シタル組合數ハ十五ニシテ其ノ建設戸數二百二戸ナリ之ニ對スル貸付資金ハ貳拾六萬圓ニシテ大正十年度拾萬五千圓、同十一年度九萬圓、同十二年度六萬五千圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ擔保ヲ徵シテ前記十五組合ニ貸付セリ其ノ内譯別表(第二表)ノ通

右ニ關聯シタル事業トシテ大正九年度ニ於テ貳萬六千五百圓大正十二年度ニ於テ貳萬參千圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ之ヲ別表(第一表)經營主体ニ貸付シ事業ヲ遂行セシメツ、アリ

右縣債ハ半年賦償還ニシテ二十年ニ完済スルモノナリ、貸付先ヨリノ償還モ亦之ニ依ラシム、而シテ縣ニ於テハ左記住宅組合法施行細則ヲ制定公布ス

#### 第一表

社會事業施設ニ對スル資金貸付調査表

經營主体及名稱	低利資金建設費總額	建設費總額	建設戸數	備考
桑名郡深谷村 第四區住宅改良組合	四、五〇〇	四、八〇〇	九	地方改善事業トシテノ施設ナリ
安濃郡雲林院村 大正住宅改良組合	四、〇〇〇	四、三五六	三	同
北牟婁郡錦村 産業組合	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	三〇	産業組合利用部ノ事業トシテノ施設ナリ
河藝郡河曲村 産業組合	二〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇	同
阿山郡城南村 計	三、〇〇〇 四九、五〇〇	一〇、六五四 八七、八一〇	一	地方改善上共同浴場建設ニ當リ資金一部ヲ貸付セシモノ

#### 第二表

住宅組合ニ關スル調査表 (大正十三年七月現在調)

組合名稱	年度別		建築費總額	組合員數	建築戶數	未建築戶數
	資金貸付額	別				
富田町住宅組合	十年度	一五、〇〇〇	一六、五三〇	九名	三	九
赤城市場住宅組合	同	一〇、〇〇〇	一九、一五〇	七	七	三
平谷住宅組合	同	五、〇〇〇	六、四六八	七	七	三
長島住宅組合	同	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇	一〇	七
尾鷲住宅組合	同	一〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	七	六	一〇
津住宅組合	同	二〇、〇〇〇	三三、二〇七	一〇	一〇	一
四日市住宅組合	十年度	三五、〇〇〇	七、一九八	二五	二五	一
富田町第二住宅組合	十一年度	二五、〇〇〇	三三、七二七	二	二	一〇
羽津村住宅組合	十一年度	五、〇〇〇	二九、〇八四	一五	一三	二
西岸江住宅組合	十一年度	一〇、〇〇〇	三三、〇二〇	一六	一六	一
引本住宅組合	同	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一九	一九	一
末永住宅組合	十二年度	二〇、〇〇〇	二八、四〇〇	一〇	二	一
松江村住宅組合	同	三〇、〇〇〇	二二、三〇五	三	一	一

津進化住宅組合	同	一一、五〇〇	一五、〇〇〇	七	一	一
下部田住宅組合	同	一五、五〇〇	三〇、三〇〇	二	一	一
計		二六〇、〇〇〇	三八二、八三九	二〇二	一六〇	四二七

三重縣令第六十六號

住宅組合施行細則左ノ通定ム

大正十年十二月二十七日

三重縣知事 山脇 春樹

住宅組合法施行細則

- 第一條 住宅組合ノ設計許可申請書ニハ定款及事業方法書ノ外組合員ニ關スル調査ヲ添付スヘシ合併ニ依リ設立スル場合亦同シ
  - 第二條 住宅組合ノ定款中一人ノ出資口數三十口以上ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル場合ハ特ニ其ノ理由書ヲ添付スヘシ
  - 第三條 住宅組合設立ノ許可アリタルトキハ組合長ハ遲滞ナク各口ニ付第一回ノ拂込ヲ爲スヘキ旨ヲ各組合員ニ通知スルコトヲ要ス
- 設立ノ許可アリタル日ヨリ一月ヲ超ユルモ仍前項ノ拂込ヲ爲ササルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ調査シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 前條ノ拂込ヲ爲シタルトキハ組合ハ遲滯ナク財産目錄及貸借對照表ヲ調製スヘシ

第五條 組合總會招集ノ通知ヲ發シタルトキハ遲滯ナク其ノ會議ノ目的日時及場所ヲ知事ニ報告スヘシ但シ組合員ヨリ總會招集ノ請求アリタルトキハ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

前項ノ會議ヲ終リタルトキハ二週間以内ニ決議録ノ謄本ヲ添へ知事ニ報告スヘシ

第六條 住宅組合ニ於テ借入金ヲ爲サムトスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、總會ノ決議
- 二、借入先
- 三、借入金額
- 四、利率
- 五、用途
- 六、償還期限
- 七、償還方法、年賦償還ニ在リテハ償還年次
- 八、償還財源

第七條 住宅組合ニ於テ借入金ヲ償還シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、償還元利金額
- 二、償還先
- 三、償還年月日
- 四、借入年月日

第八條 住宅組合ハ左記事項ニ付テハ遲滯ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、訴訟又ハ和解
- 二、會議規則其ノ他重要ナル規程ノ設定變更廢止

第九條 住宅組合法施行規則第十四條ノ規定ニ依リ讓渡シタル住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシメタルトキハ遲滯ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十條 住宅組合法第十條ノ規定ニ依リ住宅ヲ火災保險ニ附シタルトキハ遲滯ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、保險ニ附シタル建物ノ構造所在
- 二、保險契約締結ノ年月日
- 三、保險金額

- 四、保險期間
- 五、保險料及其ノ支拂方法
- 六、保險契約先

第十一條 住宅組合ニハ左ノ簿冊ヲ備付クハシ

- 一、組合員名簿
- 二、住宅臺帳
- 三、出資拂込表
- 四、出資總額表
- 五、財産臺帳
- 六、處務日誌
- 七、出納日記帳
- 八、勘定元帳
- 九、借入金臺帳
- 十、借入金現在表

第十二條 理事又ハ清算人ハ住宅組合法第十六條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル民法第七十條及第八十一條ノ規定ニ依ル破産ノ宣告ヲ受ケ若ハ破産宣告ノ請求ヲ爲シタル

トキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十三條 住宅組合又ハ利害關係人ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第七十三條ノ二又ハ第七十三條ノ三ノ規定ニ依リ清算人ノ選任又ハ解任ノ必要アルトキハ其ノ旨知事ニ具申スヘシ

第十四條 住宅組合法、住宅組合法施行規則及本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ各二通定款及事業方法書ハ各三通ヲ調製シ主タル事務所所在地ノ郡市長ヲ經由スヘシ

第十五條 住宅組合設立許可申請書組合員ニ關スル調書事業方法書其ノ他ノ様式ハ別ニ定ムル所ニ準據スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三重縣訓令甲第二十六號

郡役所、市役所、町村役場

住宅組合法施行細則取扱手續左ノ通定ム

三重縣知事 山 脇 春 樹

大正十年十二月二十七日

住宅組合法施行細則取扱手續

第一條 住宅組合ノ設立許可申請アリタルトキハ郡市長ハ左記事項ヲ調査シ事業計畫ノ當否ニ關シ意見ヲ具申スヘシ

- 一、理事及監事タルヘキ者ノ性行地方ニ於ケル名望並組合事業ニ對スル經歷
  - 二、區域内ニ於ケル住宅需給ノ狀況
  - 三、組合ノ事業遂行上特ニ便宜ヲ得若ハ障害トナルヘキ事情アラハ其ノ事情
  - 四、住宅組合法施行細則第二條ニ規定シタル事項ノ當否
- 第二條 住宅組合ヨリ左ニ掲クル事項ノ認可申請アリタルトキハ郡市長ハ意見ヲ具申スヘシ但シ輕易ナル定款變更ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 一、定 款 變 更
  - 二、合 併
  - 三、解 散
- 合併ニ依リ設立スル組合ノ理事及監事カ合併前ニ組合ノ理事及監事ニ非サル者ナルトキハ前條第一號ノ事項ニ付意見ヲ具申スヘシ
- 第三條 住宅組合ヨリ理事及監事變更ノ届出アリタルトキハ其ノ重任ニ非サルモノニ付第一條第一號ノ事項ニ付意見ヲ具申スヘシ
- 第四條 住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第二十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ郡市長ハ意見ヲ具申スヘシ
- 第五條 住宅組合法施行細則第六條ノ規定ニ依ル認可申請アリタルトキハ郡市長ハ各

事項ヲ調査シ且意見ヲ具申スヘシ

第六條 郡市長ハ組合ニ對シ命令ヲ發シ若ハ助長監督ニ關スル施設ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項ヲ報告スヘシ

第七條 住宅組合ノ區域二郡市以上ニ涉ルカ若ハ事務所所在地ト組合ノ區域トカ郡市ヲ異ニスル場合ハ主タル事務所所在地ノ郡市長之ヲ監督スヘシ但シ當該郡市長ハ必要ニ應シ關係郡市長ト協議ヲ爲スヘシ

第八條 郡市長ハ組合ノ事業經營困難ニ陥リ又ハ經營上法令若ハ定款ニ違背シ又ハ組合ノ主旨ニ反スルモノアリト認メタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ報告スヘシ

第九條 郡市長清算中ニ屬スル組合カ清算上重大ナル支障アリト認メタルトキ又ハ清算人ヲ改任スルニ非サレハ速ニ清算ヲ結了シ難キ事情アリト認メタルトキハ遲滯ナク意見ヲ具シ其ノ事由ヲ報告スヘシ

三重縣告示第四百三十號

住宅組合法施行細則第十五條ノ規定ニ依ル關係書類並帳簿樣式左ノ通定ム

大正十年十二月二十七日

三重縣知事 山 脇 春 樹

住宅組合法施行細則第十五條ノ規定ニ依ル關係書類並帳簿樣式

(第一號樣式)

住宅組合設立許可申請書  
 今般住宅組合法ニ依リ何々責任、何々住宅組合設立致度候ニ付御許可相成度別紙定款、  
 組合員ニ關スル調書、事業方法書相添へ此段申請候也  
 年 月 日 住所 設立者又ハ總代 何 某 ㊸

知 事 宛

(第ニ號様式)

組合員ニ關スル調書

職 業	住 所	氏 名	生年月日	資 産 月 收		家族人員 備 考
				出資口數	出資金額	


(第三號様式)

事業方法書

- 一、事業計畫ノ大要
- 二、火災其ノ他ノ事由ニ依リ住宅滅失ノ場合ニ於ケル處理方法
- 三、出資口數、増減ノ場合ニ於ケル爾後ノ拂込金ノ計算方法
- 四、住宅用地ノ供給方法
- 五、收支豫算書
- 六、住宅建築費ノ支辨方法
- 七、各人別建築費調表

出資口數	出資金額	延建坪	建築費	單 價	附屬設備費	單 價	合建建築費	氏 名







(第六號樣式)

住宅臺帳

住宅種別	住宅番號	建坪及敷地	出資地代	火災保險管理費	使用開始所有權移氏	名備考
	室數	坪數	坪	坪	年月日	

(第七號樣式)

出資拂込表

年月日	事由	拂込	拂戻	計
		円	円	円

(第八號樣式)

出資總額表

年月日	事由	増		減		計
		口數	金額	口數	金額	
			円		円	

(第九號樣式)

財產臺帳

建物ノ部

建築年月日	番號	種別	坪數	建築費	時價算定價格
				円	円

土地ノ部



債權者住所氏名	借入年月日	借入金額	償還期日	利率	元 金	償 還 考	支拂年月日	利 子 支 拂 考

借入金現在表 (乙)

年月日	債權者	借入金	償還高	現在高	利率	備考
		円		円		

注意 本表ハ貸借対照表ノ借入金ト符合スヘキモノトス

(第十四號様式)

財産目録

計	資 産			負 債		
	種 目	事 項	金 額	種 目	事 項	金 額
			円			円

差引金

(第十五號様式)

貸借對照表

計	貸方		借方	
	種目	金額	種目	金額
		円		円
計				

十一、公設市場並簡易食堂

公設市場ハ四日市勞働民聲會ノ經營ニ係ルモノト飯南郡松阪町營ニ係ルモノトアリテ生活必需品ヲ供給シ市價ヲ調節シ相當ノ効果ヲ舉ケツ、アルモ其ノ設備不完全ニシテ充分ナル發達ヲナシ能ハサルト公設市場ヲ理解スルノ念未タ一般ニ幼稚ナルニ歸因シテ其ノ成績振ハサル状態ナリ簡易食堂ハ四日市勞働民聲會經營ノ公設市場ノ一部ニ併置シ同市四ツ谷新町ニ在リテ相當ノ成績ヲ舉ケツ、アリ

第五 兒童保護事業

一、感化教育

▼(イ)三重縣立國兒學園

位置 河藝郡栗真村町屋  
 事業 不良少年少女感化  
 營業 三重縣  
 職員 園長富山智海外教諭一名保母二名書記一名  
 沿革 明治四十一年四月法律第四十三號感化法改正ニ伴ヒ同年十月津市大字弓之町ニ設立シ翌四十二年四月現在ノ地ヲトシ新築ニ着手シ四十三年三月落成  
 同月此處ニ移ル

現況 本院ハ感化法第五條ニ該當スルモノヲ收容感化ス

(參照) 感化法第五條

- 一、滿八歲以上十八歲未滿ノモノニシテ不良行爲ヲナシ又ハ不良行爲ヲナスノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認ムルモノ
- 二、滿十八歲未滿ノモノニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルモノ
- 三、裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

而シテ大正十三年七月末日現在男三十六名、女二名、計三十八名ヲ收容シ前  
 記第一號ニ依ルモノ十三名、第二號ニ依ルモノ二十五名ナリ  
 教育方針ハ教育勅語及戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉體シ教育法規ノ精神ニ基キ兒童  
 ノ身軀精神ノ健全ナル發達ヲ圖リ皇國臣民本來ノ面目ヲ發揮セシメ相互ニ自  
 由ト眞實トノ生活ヲ尊重シ常ニ懺悔ト感謝ヨリ生スル奉公報恩ノ活動努力ヲ  
 ナスヘキ日本臣民ヲ養成セムコトヲ期ス

縣立國兒學園大正十三年度歲出豫算

國長	年俸	一、三二〇、〇〇〇
教諭	月給	六六〇、〇〇〇
書記	月給	六〇〇、〇〇〇
保母	月給	一、〇八〇、〇〇〇
農夫兼炊事人	月給	六〇〇、〇〇〇
醫師	手当	六〇、〇〇〇
旅費	賞與	四二〇、〇〇〇
勉勵	賞與	一〇六、五〇〇

引取	費	二〇、〇〇〇
備品	費	二九六、七〇〇
消耗品	費	九八六、三八〇
被服	費	三五〇、〇〇〇
食費	費	二、五五五、〇〇〇
通信	費	三〇、〇〇〇
印刷	費	三〇、〇〇〇
肥料	費	三〇、〇〇〇
種子	費	一〇、〇〇〇
雜費	費	一九九、二五〇
營繕	費	四一二、六八〇
合計		九、七六六、五一〇
創立以來入園生		一一六名
同退園生		七八名
在園生		三八名 (内徒弟トシテ委託セルモノ五名)

▼(口)三重感化院

四日市市濱田八百六十八番地  
不良少女感化

財團法人三重感化院

院長山岡作藏外保母一名、事務員一名

沿職經事位  
革員營業置  
現況  
明治三十年九月創立シ爾來刻苦經營四十三年現地ニ院舎ヲ新築シ事業ノ進  
行ト共ニ收容兒童ノ將來ヲ慮リ年長兒童ニ活版業ヲ授ケ逐年良好ノ成績ヲ  
收メ大正六年五月其ノ組織ヲ財團法人ニ改メタリ  
大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ收容兒童ノ教  
育ハ院内ニ於テ授クルモノト市内ノ小學校ニ通學セシムルモノトアリ收容  
兒童ハ現在十二名ニシテ大正十三年度ノ收支豫算額竝創立以來ノ成績左ノ  
通リ

財團法人三重感化院大正十三年度歳入歳出豫算

第一款 補助費 一、六五〇、〇〇〇

第二款	寄附金	二、二七五、〇〇〇
第三款	雜收入	一、一二〇、〇〇〇
第四款	工場收益	八〇〇、〇〇〇
第五款	前年度繰越	五、〇〇〇
第六款	義債	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	歳出	六、八五〇、〇〇〇
第一款	在院人費	一、一四〇、〇〇〇
第二款	院費	二、九六〇、〇〇〇
第三款	負債償却	六〇〇、〇〇〇
第四款	基本財産造成費	一〇〇、〇〇〇
第五款	敷地購入費	一、一五〇、〇〇〇
第六款	豫備費	五〇、〇〇〇
第七款	義債償還	三五〇、〇〇〇
第八款	積立金	五〇〇、〇〇〇
合計	歳入	六、八五〇、〇〇〇

創立以來ノ成績表

計	男女別		改悛者	委託	放院者	逃亡者	死亡者	計
	男	女						
八六	七二	一四	一	一	三	二四	一一	一一三
一四	一	一	一	一	一	一	一	一一〇
一四三	一四三	一四三	一	一	一	一	一	一四三

二、育兒並保育

▼(イ)津市保育園

津市相生町

幼兒保育

津市

園長事務取扱滋野捨四郎保母二名

大正十三年四月津市ノ設立ニ係リ三歳以上學齡未滿ノ幼兒ヲ收容シ該兒童

ヲ通シテ生活改善、社會改良ヲナスヲ目的トシ現在ノ地ニ園舎ヲ新築ス

現況

現在男女四十六名ヲ收容シ簡易ナル遊戲、唱歌、手工等ヲ授ケ午前八時ヨリ日没迄保育シ優良ナル成績ヲ示シツ、アリ  
 尙附帶事業トシテ園内ニ「トラホーム」治療所ヲ設ケ一般附近住民ノ診療ニ應シ尙母姉會活動寫真會、音樂會等ヲ開キ趣味ノ向上ト家庭ノ聯絡ヲ圖ル而シテ大正十三年度支出豫算次ノ如シ

津市保育園大正十三年度歳出豫算

一	職員給料	一、三六〇、〇〇〇
二	旅費	二〇、〇〇〇
三	小使給料	三〇〇、〇〇〇
四	備用人料	二〇、〇〇〇
五	賞與	一一一、〇〇〇
六	備品費	一一九、〇〇〇
七	消耗品費	二六九、〇〇〇
八	電燈費	三〇、〇〇〇
九	食費	二二五、〇〇〇
	合計	一一二五



十	通信運搬費	五、〇〇〇
十一	雜費	一七五、〇〇〇
十二	修繕費	二〇、〇〇〇
合計		二、六五四、〇〇〇

一一六

▼(口)三重保育院

津市津興字米ノ内二、一二一番地

幼兒保育

財團法人 三重保育院

院長玉置壽聽外主事一名、保母四名

大正三年九月、玉置壽聽、小林源六、外數名ノ有志ニ依リテ現在ノ地ニ設立セラレタルモノニシテ幼兒ニ拘束セラレテ勞働ニ從事スルコト能ハサル人ノ爲晝間幼兒ノ保育ヲナシ安シテ生業ニ就カシム、大正七年三月其ノ組織ヲ改メテ財團法人トナス

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現在男二十七人、女二十七人計五十四人ヲ收容シ生後百日以上滿六歳迄ノ兒童ヲ午前

現況

六時ヨリ日没迄保育ス、保育料一日五錢ヲ徴シ晝食ヲ與ヘ乳兒ニハ牛乳ヲ與フ、今回御成婚記念トシテ院舎ノ擴張ヲ行ヒ事業ノ發展ヲ期シツ、アリ大正十三年度收支豫算並ニ創立以來ノ收容者左ノ如シ

財團法人 三重保育院大正十三年度歳入歳出豫算

第一	補助金	一、〇〇〇、〇〇〇
第二	財産收入	一、〇三五、三〇〇
第三	寄附金	八〇〇、〇〇〇
第四	保育料	四六〇、五〇〇
第五	會員出資金	五七二、四〇〇
第六	雜收入	二〇、〇〇〇
第七	借入金	三〇〇、〇〇〇
合計		四、一八八、二〇〇
第一	歳出	一、九三〇、一〇〇
第二	事務所費	六七〇、六〇〇

一一七

第三款 臨時費 一、五八七、五〇〇  
 合計 四、一八八、二〇〇  
 創立以來ノ收容者 男 三八〇名 女 三三三名 計 七一三名

▼(八) 四日市佛教保育院

四日市々南町二、七〇一番地

幼兒保育  
 有志會員

院長後藤亮穩外主事一名、書記二名、保姆三名助手二名

大正五年十月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ヲ爲ス目的ヲ以テ四日市々各宗有志僧侶相謀リテ創立シ爾後現院長後藤亮穩之ヲ引繼經營シ大正十年五月同市濱町ニ分院ヲ設置ス

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男十一人女十六人、計二十七人ヲ收容ス大正十三年度歳入歳出豫算並ニ創立以來ノ收容者左ノ如シ

四日市佛教保育院大正十三年度歳入歳出豫算

歳入	歳出
第一款 會員 三〇〇、〇〇〇	第一款 事務所費 二、二〇七、〇〇〇
第二款 托鉢 二五〇、〇〇〇	第二款 給養費 一、三三五、〇〇〇
第三款 寄附 一、六〇〇、〇〇〇	第三款 院舍費 三九八、〇〇〇
第四款 事業 四〇〇、〇〇〇	第四款 基金積立金 五〇〇、〇〇〇
第五款 助成 一、五〇〇、〇〇〇	第五款 豫備費 一〇〇、〇〇〇
第六款 基金 一四六、二五〇	
第七款 雜收 三一八、一九五	
第八款 繰越金 二五、五五五	
合計 四、五四〇、〇〇〇	

合計 創立以來ノ收容者 男 三三〇名 女 三二〇名 計 六三〇名

▼(二)白鳳愛兒園

阿山郡上野町丸之内二十三番地

幼兒保育

有志會員

理事堤正真、佐々木普門、靜永瑞貞外幹事一名、保母三名

職員

大正七年八月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ノ目的ヲ以テ上野町各宗僧侶並ニ

有志相謀リテ同町惠美須町一、五九一番地ニ創立シ上野保育院ト稱シタル

モ最近ニ至リ名稱ヲ前記ノ通り改稱セリ、然ルニ位置一隅ニ偏シ設備完全

ナラサルヲ以テ御成婚記念トシテ現在ノ地ニ園舎ヲ新築シ十三年三月移轉

現況

ヲ了シ優良ナル成績ヲ擧ケツ、アリ

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲四百圓ヲ補助ス、而シテ現在男女計

九十八名ヲ收容ス大正十三年度ノ豫算並創立以來收容者左ノ如シ

白鳳愛兒園大正十三年度歳入歳出豫算

第一欸	歳入	一、七〇五、〇〇〇
第二欸	歳入	二六〇、五〇〇
第三欸	歳入	一、三八〇、〇〇〇
計	歳入	三、三四五、五〇〇
第一欸	歳出	一、三七四、〇〇〇
第二欸	歳出	六二二、五〇〇
第三欸	歳出	五二二、〇〇〇
第四欸	歳出	五、〇〇〇
第五欸	歳出	三〇〇、〇〇〇
第六欸	歳出	五二〇、〇〇〇
合計	歳出	三、三四五、五〇〇

第一欸	雜給	一、三七四、〇〇〇
第二欸	保護費	六二二、五〇〇
第三欸	需用費	五二二、〇〇〇
第四欸	納付金	五、〇〇〇
第五欸	積立金	三〇〇、〇〇〇
第六欸	臨時費	五二〇、〇〇〇
合計	歳出	三、三四五、五〇〇
創立以來ノ收容者	男	二〇一名
	女	一六七名
	計	三六八名

▼(水)宇治山田市佛教團保育園

宇治山田市宮後町字越坂養草寺境内  
幼兒保育

宇治山田市佛教團

園長鬼頭誠吾、外書記一名、保姆一名、助手一名

大正十一年十一月一日晝間幼兒保育ノ目的ヲ以テ宇治山田市佛教團員相謀  
リテ創立シ主トシテ托鉢收入ニヨリテ經營ス院舎ハ將來適當ナル土地ヲ選  
定シ新築ノ計畫ヲ有ス

現況

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金貳百圓ヲ補助ス現在男二十一人女  
十四人計三十五人ヲ收容シ午前六時ヨリ日没迄保育ヲナス資産トシテハ記  
録スルモノナシ而シテ大正十三年度ノ豫算並ニ創立以來ノ收容數左ノ如シ

宇治山田市佛教團保育園大正十三年度歲入歲出豫算

一、醜	出	金	二五二、〇〇〇
二、補	助	金	六〇〇、〇〇〇
三、喜	捨	金	三六〇、〇〇〇
四、寄	附	金	一〇、〇〇〇

五、雜	收	入	一八五、〇〇〇
六、繰	越	金	一四四、〇〇〇
合計			一、五五一、〇〇〇

歲出

一、事	務	所	費	九五、〇〇〇
二、事	業	費	一、二九五、〇〇〇	
三、手	當	金	九五、〇〇〇	
四、負	擔	金	一一、三〇〇	
五、交	際	費	二〇、〇〇〇	
六、豫	備	費	三四、七〇〇	
合計			一、五五一、〇〇〇	

創立以來ノ收容者 男 三五名 女 二六名 計 六一名

▼(へ)松阪愛護園

位 置 飯南郡松阪町大字松阪本町二、二二四番地(舊善緣寺内)  
事 業 幼兒保育

沿職經 革員營

飯南郡佛教團松阪支部  
理事長高志一成外保母二名  
勞働者ノ生業能率ヲ助長シ心身ノ發達ト純良ナル風習ヲ馴致スルヲ目的トシテ松阪支部員協議ノ上大正十三年四月認可ヲ得テ同町西町五丁目淨邦庵内ニ設置シ同年七月現在ノ地ニ移轉セリ將來資金ヲ得テ新築スル計畫ヲ有ス

現況

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金百五拾圓ヲ補助セルカ現ニ男女十餘人ヲ收容ス大正十三年度歳入出豫算左ノ如シ  
松阪愛護園大正十三年度歳入歳出豫算

第一款	支部員歳出金	四〇〇円〇〇〇
第二款	事業収入	一七〇、五〇〇
第三款	篤志寄附金	一〇〇、〇〇〇
第四款	助成金	二〇〇、〇〇〇
第五款	雑収入	一七九、五〇〇
合計		一、〇五〇、〇〇〇

第一款	事務所費	五三九、九〇〇
第二款	給養費	三九〇、一〇〇
第三款	園舎費	一二〇、〇〇〇
合計		一、〇五〇、〇〇〇

▼(ト)三重濟美學院

沿職經 革員營

津市丸之内殿町二〇八七番地  
孤貧兒救濟、幼兒保育  
財團法人三重濟美學院  
理事長能真海外主事一名、事務員二名、保母二名  
明治三十四年能教海三重育兒院ヲ寺町ニ創立シ同年奥野定之助津養育院ヲ伊豫町ニ創立シ爾來併立シ來リタルヲ大正三年四月兩院主宰者ノ諒解ノ下ニ合併統一シ名ヲ三重濟美學院ト改稱シ大正六年二月組織ヲ財團法人ニ改ム然レトモ時代ノ趨勢ハ育兒ノミヲ以テ満足スル能ハサルノ時恰モ東宮殿下御成婚ニ際セルヲ以テ記念トシテ幼兒保育ヲ計畫シ園舎ヲ新築シテ精華

現況

園ト名命シ現在男女二十有餘名ヲ收容シテ晝間保育ヲ爲ス  
 大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ現在男十五人  
 女六人、計二十一一人ヲ收容シ學齡兒童ハ市内小學校ニ通學セシム大正十三  
 年度豫算並ニ創立以來ノ成績左ノ如シ

財團法人三重濟美學院大正十三年度歳入歳出豫算

第一款	財產收入	七六六、〇〇〇
第二款	雜收	三、二四〇、〇〇〇
第三款	助成金	一、二〇〇、〇〇〇
第四款	會員醮金	二、三〇〇、〇〇〇
第五款	臨時寄附	七〇〇、〇〇〇
合計	歳入	八、二〇六、〇〇〇
第一款	事務費	一、四四五、〇〇〇
第二款	救養費	二、四九五、〇〇〇
第三款	修繕費	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	歳出	八、二〇六、〇〇〇

第四款	敷地費	三〇、〇〇〇
第五款	精華園費	五〇〇、〇〇〇
第六款	積立金	六〇〇、〇〇〇
第七款	豫備費	二、一三六、〇〇〇
合計	創立以來ノ成績	八、二〇六、〇〇〇

收容人員	孤兒	三三三	男	計	五五
	貧兒	七〇			一〇七
	棄兒	六			一〇
計		一〇九			一七二
	緣族引取	五二	男	計	八〇
	篤志者引取	二八			四五
	死亡者	一四			二六
計		九四			一五一
	退院者				
	計				
	男	六三			
	女	二二			
	計	八五			

▼(子)九華育兒院

桑名郡桑名町字新町二、四四七番地

孤貧兒救濟

財團法人九華育兒院

院長矢田俊正外理事二名、主事一名、保姆一名

明治三十四年五月、矢田俊正、烏飼清廣、塚本左次郎之ヲ創立シ爾來大日本佛教慈善財團及九華慈善會ノ後援ニ依リ事業ヲ繼續シ大正元年八月組織ヲ財團法人ニ改ム然ルニ院舎漸ク腐朽シ設備亦不完全ナルヲ以テ東宮殿下御成婚記念トシテ土地ヲ買收シ新築ノ計畫ヲ樹テ目下工事中ニ屬シ本年末竣工ノ豫定ナリ

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金五百圓ヲ補助ス而シテ現在男女二十三名ヲ收容シ學齡兒童ハ小學校ニ通學セシム大正十三年度豫算額並ニ創立以來ノ成績次ノ如シ

財團法人九華育兒院大正十三年度歳入歳出豫算

歳入

現况

位 置 業 務 員 革 沿

第一款	財產收入	五七七 <sup>四</sup> 七九〇
第二款	繰越金	五、〇〇〇
第三款	雜收入	三四一、五〇〇
第四款	助成金	一、〇〇〇、〇〇〇
第五款	九華慈善會交付金	六四〇、〇〇〇
第六款	寄附金	八〇九、九六〇
合計		三、三七四、二五〇

歳出

第一款	事務費	一、一九六、〇〇〇
第二款	給養費	二、一二八、二五〇
第三款	修繕費	二〇、〇〇〇
第四款	豫備費	三〇、〇〇〇
合計		三、三七四、二五〇

創立以來ノ成績

貧兒	男	三九	女	一三	計	五二
----	---	----	---	----	---	----

收容人員

孤兒	二	五	七
遺兒	一三	一	一四
計	五四	一九	七三
緣族引取	三二	一三	四五
篤志者引取	一	一	一
死亡者	六	一	七
計	三八	一四	五二

一四〇

▼(リ)波切村立保育場

位 置  
事 業  
經 營  
職 員  
沿 革

志摩郡波切小學校内  
 幼兒保育並就學督勵  
 波切村  
 村長、校長監督ノ下ニ訓導三名保母三名  
 從來當地方ハ農繁期及漁獲時期ハ子守ノ爲就學兒童ヲ休學セシムルノ風習  
 アル爲小學校兒童出席歩合甚低キヲ以テ之ヲ向上セシメ且幼兒ノ健全ナル

現 況

發育ニ資セム爲御大典記念トシテ大正五年五月設立セリ  
 本院ハ前記目的以外ニ勞働者福祉ノ増進ヲ兼テ幼兒保育ニ努ム故ニ日曜、  
 祭日等ハ小學校ニ準スルコト勿論ニシテ學齡兒童ハ其ノ家庭ノ幼兒ヲ携ヘ  
 テ登校シ授業時間中之ヲ保母ニ托シ退校ノ砌之ヲ受取リ歸宅ス保育料ハ一  
 人一ケ月貳拾錢ヲ徵收ス而シテ大正十二年度出席歩合ハ一日平均二十人ニ  
 シテ本年度ハ左記ノ成績ヲ示セリ

一ヶ月出席人員	二三四人	一日平均出席人員	九.七五
四 月	五九四人		二二.〇〇
五 月	一、〇〇五人		四〇.二〇
六 月			

大正十三年度豫算ハ四三三圓ニシテ本年度小學校改築ト共ニ本場モ現在ノ  
 二倍ニ擴張シ内容ノ充實ト共ニ場内外ノ設備ヲモ完成セムトスル計畫ヲ有  
 ス因ニ本施設ハ縣下ニ於ケル唯一ノ試ミニシテ本村ト事情ノ類似セル町村  
 ニモ必要アルヲ認ム

三、妊産婦保護

一四二



▼(イ) 宇治山田市妊産婦保護

位置 宇治山田市大字一志久保町一九四番地寺田産院内

事業 妊産婦保護

經營 宇治山田市

職員 院長寺田縫之介

宇治山田市住民ニシテ生活困難ナル爲助産婦ヲ雇ヒ入ル、コト能ハサル者ヲ保護スル目的ヲ以テ大正十一年四月宇治山田市ハ妊産婦保護所ヲ設置シ同事務全部ヲ同氏ニ囑託スルヤ銳意該事業ニ力ヲ致シ

大正十一年中 百十七名

大正十二年 八十四名

合計二百一名ノ妊産婦ノ保護ヲ爲シ良好ナル効果ヲ擧ケツ、アルノミナラス市ノ同經費中へ毎年貳百圓宛ヲ寄附シ患者ニ對シテハ懇切丁寧ニ取扱ヒ市民ノ信用ヲ博セリ

大正十三年度歳出豫算左ノ如シ

八八三〇〇〇  
▼(ロ) 越賀村産婦保養所

位置 志摩郡越賀村中央

事業 産婦保護

經營 越賀村

設置年月日 大正十二年三月三十一日

沿革

從來本村ニハ東西二ヶ所ニ頗ル粗糙ナル保養所アリテ土地ノ習慣ニヨリ産婦ハ貧富ノ別ナク産後四十日乃至六十日間此處ニ休養スルヲ例トス然ルニ近時該建物腐朽セルヲ以テ之カ改築ノ議起リ村會ノ議決ヲ經テ工費壹千九拾四圓拾錢ヲ投シ昨年三月二ヶ所ヲ合併シテ中央部ニ建築セリ

設備

建坪十五坪瓦葺木造平家ニシテ六疊二室、三疊一室ヲ備ヘ「コンクリート」ノ土間ニ炊事室ヲ附設シ電燈ノ設備ヲナシ普通住宅ト異ルコトナシ

實況

産婦ニハ母或ハ姉妹等付添ヒテ炊事ヲ爲シ休養期間中ハ全ク繁雜ナル境遇ヲ脱シテ靜養スルコトヲ得使用上ニ付テハ何等ノ拘束或ハ規定等ナシ故ニ一年ヲ通シ約六十人ノ使用者アリト謂フ

漁村ニ於ケル本施設ハ母体ノ健康乳兒ノ發育上最モ緊要ナリトス尙本村ニハ村營産婆アリテ本保養所ノ施設ト相俟テ妊産婦及乳兒ノ保健上著シキ効果ヲ擧ケツ、アリ

#### 四、幼兒保護

▼(イ) 津市兒童遊園

津市榮町四天王寺境內

津市伊豫町阿彌陀寺境內

津市觀音境內

津市

都市兒童ヲシテ自由ニ遊戲セシメ以テ心身ヲ健全ナラシメム爲前記ノ三個所ニ兒童遊園ヲ設置シ「スベリ臺」「ブランコ」金棒等ヲ設備ス而シテ四天王寺ハ大正十一年四月其ノ他ハ大正十三年三月完成セリ  
開始以來多數ノ兒童之ヲ利用シ嬉々トシテ終日運動ニ餘念ナシ本年度豫算左ノ如シ

津市兒童遊園大正十三年度歲出豫算

一、兒童遊園地費

一、二〇〇圓

計

一、二〇〇圓

#### 五、病兒及虛弱兒保護

▼(イ) 日本赤十字社三重支部夏季兒童保養所

度會郡二見浦河藝郡鼓ヶ浦

身體虛弱又ハ腺病質兒童ノ體質改良並健康増進

日本赤十字社三重支部

主管||赤十字社三重支部主事小森安太郎

事務員||支部職員

教員||開設地又ハ其ノ附近ノ小學校教員ニ囑託ス

醫員||支部山田病院在職者ヲ以テ充ツ

看護婦||右同

沿革

前記ノ目的ヲ以テ小學校兒童ノ夏季休暇ヲ利用シ二見浦ハ大正六年以來鼓ヶ浦ハ大正十年以來毎年八月ニ於テ三週間繼續開設ス  
本年度二見浦保養所ハ八月三日ヨリ二見小學校ニ鼓ヶ浦保養所ハ八月四日ヨリ白子町小學校ニ開設シ何レモ大凡百名宛ヲ收容ス所内ニハ兒童居室兼寢室兒童娛樂室兼雨中運動場、應接室、事務室、診察室、食堂、教室、病

現況

室、浴場、炊事場、小使室、便所等一切ノ設備ヲ爲シ適切ナル保護ノ下ニ  
身體的保養、精神的慰安、食養檢診治病、學科自修等日々ノ作業ヲ行フ故  
ニ期間短キニ拘ラス其ノ成績良好ナルヲ以テ毎年定員以上ノ申込アル盛況  
ヲ呈ス而シテ收容兒童ハ家庭ノ狀況ニ依リ數ヶ浦ハ無料トシ二見浦ハ一人  
拾五圓ヲ徴收ス

本施設ハ其ノ期間短キヲ以テ固ヨリ充分ノ効果ヲ期スルコト能ハスト雖夏季休暇中放縱  
ニ流レ易キ缺點ヲ補ヒ集團的生活ニ依リテ社交ニ慣レシメ自治的生活ニ依リテ依頼心ヲ  
減シ而モ「オゾン」ニ富メル清鮮ナル空氣中ニ起居シ秀麗ナル山水ニ接シ其ノ心身ヲ  
養フ等ノ効果尠少ナラス本年度豫算左ノ如シ

大正十三年度豫算額

五、七八七、〇〇〇

▼(ロ) 津市教育會夏季海濱學校

位置 津市阿漕浦海岸  
津市乙部浦海岸  
津市教育會  
沿 津市教育會  
經 虛弱兒童ノ健康ヲ圖リ且休業中ヲ有意義ニ送ラシメム爲大正十一年津市佛  
營 津市教育會

職員  
生徒

教會主催ノ下ニ津市贊崎海岸ニ海濱學校ヲ開設セルカ翌十二年度ニ於テ津  
市教育會ノ經營ノ下ニ乙部浦ニ之ヲ開設シ其ノ効果偉大ナリシヲ以テ大正  
十三年度ハ前記ニケ所ニ開催スルコト、シ八月三日開校セリ

乙部浦海濱學校 主任吉田養生校長外指導者トシテ市内小學校訓導四人  
阿漕浦海濱學校 主任鈴木立誠校長外指導者トシテ市内小學校訓導三人  
學校醫ノ身体檢査ノ結果身体虛弱ナル市内小學校尋常三、四年兒童中ヨリ  
選定ス本年ノ如キハ豫定人員ノ約二倍ニ達セリト云フ本年度入學セル兒童  
數左ノ如シ

乙部浦海濱學校 七〇名  
阿漕浦海濱學校 五〇名

現況

八月三日ヨリ三週間毎日午前八時ヨリ午後四時迄開校シ毎日々課表ニヨリ  
体操、深呼吸、海水浴、砂浴、學科復習、音樂、寫生等ヲ課シ其ノ他時機  
ニヨリ學藝會、音樂會ヲ開催ス尙毎日一回ノ身体檢査ヲ爲シ午食後ハ林間  
ニ「ハンモック」ヲ吊リ午睡ヲ採ラシメ又一回約拾五錢ヲ以テ適當ナル食  
事ヲ支給シ尙午後間食ヲ與フ

醫師及看護婦 市内小學校囑託醫師出張身体檢査ヲ行ヒ發育ノ狀態ヲ調査ス看護婦ハ市

立病院ノ看護婦ニ囑託シ傷病者ノ醫療看護ニ當ラシム  
本學校ハ青松白砂ノ勝地ニ在リ而モ十分ナル養護ト規律ノ下ニ集團的訓練ヲ受クルヲ以  
テ兒童ノ心身發達上多大ノ効果アルヲ以テ毎年繼續開催ノ計畫ヲ有ヌ本年度豫算左ノ如  
シ

海濱學校大正十三年度歲出豫算

一、一〇〇〇〇〇

### 六、異常兒保護

▼(イ) 私立三重盲啞學校

津市乙部町

盲啞教育

有志會員

校長水上七郎外教員八名、外務員三名

明治四十三年四月三重縣師範學校附屬小學校ニ盲生學級ヲ附設シ來リシカ  
大正八年十二月之ヲ分離シ三重縣慈善協會所屬トシテ津市外青谷ニ移シ三

位 置 津市乙部町  
事 業 盲啞教育  
經 營 有志會員  
職 員 校長水上七郎外教員八名、外務員三名  
沿 革 明治四十三年四月三重縣師範學校附屬小學校ニ盲生學級ヲ附設シ來リシカ  
大正八年十二月之ヲ分離シ三重縣慈善協會所屬トシテ津市外青谷ニ移シ三

### 現 況

重盲醫院ト改稱ス次テ大正九年四月同會所屬ヲ離レ會員組織トナシ從來盲  
生ノミヲ教育シ來リシカ更ニ聾啞部ヲ併置シ其ノ修業年限ヲ各普通科五  
年、技藝科四年ニ改正ス越ヘテ大正十年四月私立學校令ニ依ル認可ヲ受ケ  
名稱ヲ私立三重盲啞學校ト改稱シ盲部普通科修業年限ヲ六ケ年ニ延長ス然  
レトモ入學兒童増加ニ伴ヒ次第ニ狹隘ヲ感シタルヲ以テ校舍新築ノ計畫ヲ  
樹テ大正十年度ニ於テ現在ノ土地ヲ購入シ熊澤一衛氏ノ特志ニ依リ校舍ノ  
新築寄附ヲ受ケタルヲ以テ之ニ寄宿舎ヲ附設シ大正十二年五月移轉シ今日  
ニ及ブ  
大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金貳千圓ヲ補助ス現在男女六十三名  
ヲ收容シ遠方ノ兒童ニハ寄宿ノ便ヲ與ヘ銳意之カ教育ニ努力シツ、アリ偶  
々昨年八月盲啞教育令公布ニ伴ヒ學則ノ變更其他諸般ノ設備ヲ施シ文部省  
ノ認可ヲ受ク現在ノ教授科目並ニ大正十三年度歲入出豫算左ノ如シ

教 授 科 目

初等部	盲部	聾部	啞部
	中		
初等部	按科本科	按科別科	按科選科
	按科		
初等部	豫科	初等部	中
初等部	裁	縫	科
初等部	工	藝	科



第八款 償還費 合計

一、四九〇、五六〇  
一四、八八六、五六〇

▼(口) 神都訓盲院

宇治山田市岩淵町二〇九番地

盲人教育

有志會員

院長牛江卯助外教員四名

位置 事業 營業 職員 沿革

明治三十九年宇治山田鍼灸按摩協會ノ發起ニテ鍼灸按摩術ノ講習ヲ同市岩淵町ニ開キタルニ始ムル大正八年一月牛江氏ヲ院長ニ神田竹次郎氏ヲ院主ニ推シ神都訓盲院設立ノ認可ヲ申請シ同年七月十日認可ヲ得テ開院ス大正九年十一月神田氏院主ヲ辭ス依テ牛江氏院主ヲ兼ネ大正十年三月院舎ヲ現在ノ地ニ新築シテ今日ニ及フ

現況

大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金貳百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男女十四人ヲ收容シ左記教授科目ニ依リテ教授ヲナシ生徒ハ總テ通學ヲ爲ス大正十三年度豫算左ノ如シ

盲生	普通科	技藝科
修身 國語	修身 醫學	
算術 地理	衛生 鍼灸術	
歷史 理科	按摩術 體操	
唱歌 體操		

神都訓盲院大正十三年度歳入歳出豫算

歳入

- 一、贊助會費
- 二、授業料
- 三、補助金
- 四、寄附金
- 五、雑收入

五〇〇、〇〇〇  
三〇、〇〇〇  
五五〇、〇〇〇  
一〇〇、〇〇〇  
二二〇、〇〇〇

六、繰越金	二二八、〇〇〇
七、借入金	二七二、〇〇〇
合計	一、七〇〇、〇〇〇
一、教員給料	七八〇、〇〇〇
二、消耗品費	四〇、〇〇〇
三、集金費	一〇〇、〇〇〇
四、火災保険料	二四、〇〇〇
五、通信費	五、〇〇〇
六、旅費	三五、〇〇〇
七、借入金償還費	四三〇、〇〇〇
八、圖書費	六〇、〇〇〇
九、備品費	三〇、〇〇〇
一〇、借地料	五五、〇〇〇
一一、電燈料	一〇、〇〇〇
一二、雑費	五〇、〇〇〇

一五四

## 第六 教化事業

### 一、矯風並生活改善事業

一三、豫備費	二一、〇〇〇
一四、營繕費	六〇、〇〇〇
合計	一、七〇〇、〇〇〇

右ハ斯民會ノ活動ニ依リ民力涵養事業ノ一トシテ消費節約ト共ニ或ハ講演會又ハ文書ノ宣傳等ニヨリテ其ノ實行ヲ促シ時間ノ尊重ヲ鼓吹シ冠婚葬祭其ノ他日常生活上ノ改善ヲ獎勵シ郡市ニ於テハ夫々規約ヲ設ケテ實行シ時代ニ適應スヘク努メツ、アリ。尙東京市ニ於ケル生活改善同盟會主催「時の記念日」ニ關シテハ第三回ヨリ之ニ賛同シ或ハ宣傳ボスターノ配付ヲナシ或ハ講演會ヲ催シ縣下ヲ通シテ一齊ニ時間尊重定時厲行ニ力ヲ盡シメ本年第五回記念日ニ於テハ「時の記念日に」ト題セル「パンフレット」五千部ヲ印刷シテ之ヲ配付シ尙縣廳ハ勿論縣内各官公署トモ定時ノ厲行ニ努メ次第ニ美風ヲ馴致スルニ至レリ

## 二、民力涵養

民力涵養事業ニ關シテハ大正八年三月內務大臣訓令ノ發布以來之ニ基キテ五大要綱徹底ニ關スル計畫大綱ヲ立テ曩ニ任用セル貯蓄獎勵員囑託ヲシテ專ラ其ノ衝ニ當ラシメ殊ニ縣斯民會ハ其ノ目的事業ニ於テ相合致セルカ故ニ本會ヲシテ一層活動セシメ講演講話會ノ開催機關雜誌三重斯民ノ發刊等ニ依リテ健全ナル國家觀念ノ養成、人心ノ指導、經濟ト道德ノ調和、生活ノ安定等ニ意ヲ用ヒ各種ノ団体ト聯絡ヲ保チ內務省其他ヨリ名士ヲ招聘シテ講演會ヲ開ケルモノ三十六回參會者約二萬九千ニ及ヒ其ノ他公私ノ學校ニ於テ隨時兒童、生徒ニ對スル訓話或ハ文書印刷物宣傳等ニ依リ趣旨次第ニ徹底シ各郡市ニ於テハ生活改善、矯風規約ヲ制定シテ實行シツ、アリ然レトモ歐洲大戰ノ好況ニ伴ヒ奢侈浪費ノ風習容易ニ之ヲ矯正スルニ至ラス而モ經濟界ノ不況ハ生活ノ安定ヲ脅威スルコト甚シキモノアリ縣ハ深ク此ノ狀勢ニ鑑ミ五大要綱中刻下最モ力ヲ傾注スヘキハ勤儉貯蓄ノ美風涵養ニ在ルヲ思ヒ縣斯民會ヲシテ時間尊重、厲行ニ關スル印刷物三萬枚ヲ調製シテ全縣下ニ配付セシメ又ハ各郡市部會ヲシテ便宜講演會ヲ開催セシメ之ニ要スル經費ノ一部ヲ補助シテ相當ノ効果ヲ擧ケタリ爾來奢侈浪費ノ惡風ヲ矯メ節約利用ニ努メテ物價ノ低落ニ資シ生活ノ安定、産業ノ振興ヲ期セム爲更ニ本縣斯民會ヲシテ大正十一年

七月ノ初之ニ要スル宣傳印刷物二十五萬枚ヲ縣下各戸ニ配付セシメ尙其ノ趣旨ヲ明ニスル爲「節約のすゝめ」ト題スル小冊子二萬冊ヲ印刷シテ各市町村ノ必要ナル箇所ニ配付セリ次テ同會ハ左記方案ヲ各郡市部會ニ示シテ便宜土地ノ狀況ニ適切ナル方法ニヨリ實行セシメ其ノ經費ノ一部ヲ補助セリ

- 一、通俗講演並ニ活動寫眞ニ依ル講話ヲ催スコト
- 一、各學校生徒兒童ヲシテ本趣旨ヲ實行セシメ且之ヲ通シテ家庭ニ普及セシムルコト
- 一、戸主會、主婦會、青年會、處女會、軍人會、其ノ他諸団体ヲ督勵シテ本趣旨ヲ實行セシムルコト

一、神職、僧侶、其ノ他人心指導、民衆教化ノ任ニ當ル者ヲシテ講演其ノ他ニ依リ本趣旨ノ徹底ニ努メシムルコト

- 一、停車場其ノ他必要ナル箇所ニ宣傳ポスター或ハ揭示板ヲ掲クルコト
- 一、「スタンプ」類ヲ作りテ書類ノ餘白ニ押捺スルコト
- 一、葉書、封筒等ノ餘白ニ要項ヲ刷込ムコト

其ノ他節約日設定並其ノ實行ニ關シ民力涵養運動ト相聯絡シテ目的ノ貫徹ニ盡スヘク之ヲ各郡市長ニ移牒シテ便宜之ヲ實行セシメタル結果員辨郡ニ在リテハ毎月一日、十五日ヲ飯南郡ニ在リテハ毎週金曜日ヲ、南牟婁郡ニ在リテハ毎月一日、十一日、二十一日



ヲ「節約デー」トシテ實行シ其ノ他ノ各郡市ニ在リテモ土地ノ狀況ニ應シテ相當ノ方法ヲ講シツ、アリ

大正十一年九月十三日川村内務次官ノ消費節約ニ關スル通牒ニ接スルヤ本縣ノ實況ニ鑑ミ左記四項ヲ定メテ其ノ實行ヲ各郡市長ニ移牒シ目下何レモ土地ノ狀況ニ適合セル方案ヲ設定セリ

- 一、社交儀禮、其ノ他一般ノ慣習ヲ始メ個人生活ニ亘ル消費節約ニ關シテハ各地既定ノ矯風規約、節約申合規約竝之ニ類スル規約ヲ厲行シ未設ノモノニアリテハ此ノ儘便宜之ヲ協定セシメ且ツ委員等ヲシテ其ノ實行ヲ督勵セシムルコト
- 一、地方ノ狀況ニ應シ便宜節約日ヲ定メ節約ヲ厲行セシムルコト
- 一、商業會議所、商工會、產業組合、新民會、戶主會、主婦會、青年會、處女會、在郷軍人會、佛教會其ノ他各種團體有志等ヲ相聯絡セシメ互ニ提携呼應シテ消費節約ノ運動ヲ行ハシムルコト

一、消費節約ノ實行ト共ニ勤儉貯蓄ヲ獎勵スルコト  
貯蓄獎勵ニ關シテハ明治四十二年五月郡市長ニ對シ御登極五十年奉祝ノ爲メ貯金組合ノ設置ヲ獎勵シ明治五十年ニ於ケル貯金額一千萬圓ニ達セシムル計畫ノ下ニ之ヲ實行セシメシカ既ニ滿年ニ達セルヲ以テ大正六年六月再ヒ郡市長ニ訓示シ各郡市豫定貯蓄額ヲ定

メ更ニ向フ十ヶ年間ニ少クトモ五百萬圓ノ蓄積ヲ爲サシムルコト、シ一層之カ督勵ニ努メタルカ大正八年三月貯蓄獎勵員囑託一名ヲ設置セル際民力涵養ニ關スル内務大臣ノ訓示ニ接シ該囑託ヲシテ民力涵養事業ノ一トシテ其ノ獎勵ニ當ラシメタルカ大正十二年ニ於ケル豫定額參百貳拾四萬壹千圓ニ對シ同年末ノ貯金總額五百拾六萬五千參百圓ニ達シ貯金人員十八萬九千七百二十一人ヲ算ス

大正十二年十一月國民精神作興ニ關スル大詔煥發セララル、ヤ聖旨ノ普及徹底ニ關シテ種々畫策スル所アリ先ツ縣參事會ニ諮リテ金貳萬圓ノ支出ヲ求メタルカ同會亦異議ナク之ヲ議決セルヲ以テ左記三計畫ヲ遂行セリ

- 一、詔書謄本ノ交付  
社會局ニ依頼シテ詔書謄本一千一百部ヲ調製シ之ヲ各郡市役所町村役場各縣立公立私立學校社會事業團體等ニ交付シ機會アル毎ニ奉讀セシムルヤウ訓令セリ
- 二、國之礎配付

國民精神作興ニ關スル詔書ハ勿論古クハ天孫降臨ノ神勅ヨリ明治大正ニ至ルマテ歴代ノ詔勅ニシテ我カ國體ノ尊嚴竝列聖ノ洪謨ヲ知ルニ足ルヘキモノヲ謹輯シテ之ヲ印刷シ二十五萬部ヲ縣下各戸各官公署、各學校、青年團、處女會、軍人會、各種組合其ノ他ニ配付シ適當ナル場所ニ保管シテ日夕誦讀セシムルノ資ニ供セリ

三、講演會ノ開催

第一期計畫トシテ大正十三年一月ヨリ三月迄東京方面ヨリ二荒芳徳、高島平三郎、留岡幸助、松村介石、國府種徳ノ諸氏ヲ聘シ各郡市ニ亘リ一ヶ所或ハ二ヶ所ニ於テ詔書御趣旨徹底ニ關スル講演會ヲ開催セルカ其ノ度數二十八參會者二萬二千ニ及ヘリ第二期計畫トシテ各郡市ヲシテ町村及必要ナル箇所ニ講演會ヲ開カシメ必要ト認ムル個所ニ縣ヨリ講師ヲ派遣シツ、アリ本年農閑期ニ入ラハ一層其ノ活動ヲ促シ尙適當ナル實行方法ヲ講セシム

▼(イ)三重縣斯民會 (三重縣內務部社會課內)

民風ヲ作興シ地方ノ改良ヲ圖ラム爲明治四十二年十月本會ヲ組織シ各郡市ニ部會各町村ニ支會ヲ設置シ以テ相互ノ聯絡ヲ執リ統一ヲ期ス而シテ本會ニ在リテハ總會ヲ開クコト十三回同時ニ篤志者、孝子節婦、義僕忠婢、模範小作人並職工等ヲ表彰スルコト百三十名ニ及フ名士ヲ招聘シテ各郡市ニ巡回講演ヲ行ヒ或ハ部會或ハ支會ノ申請ニ依リテ講師ヲ派遣ス而シテ大正七年度ニ於テハ農事試驗場果樹園内ニ斯民講話室ヲ建設シ農場視察者ノ休憩ニ便シ兼テ適切ナル講話ヲ爲シ以テ本會趣旨ノ徹底ニ資ス  
本會ノ經費ハ特別會計タル縣積立金利子ヨリ毎年獎勵金トシテ下付セラル、所要金額ヲ

以テ維持ス本年度收支豫算並規則左ノ如シ

而シテ本年度ニ於ケル總會ハ己ニ遂行シタルカ目下當面ノ急タル國民精神作興ニ關スル詔書ノ御趣旨徹底ノ爲活動寫真器械及「フィルム」ヲ購入シ縣社會事業協會、縣佛教會等ト相提携シテ各地ニ出張講演ヲ開催シテ専ラ實績ヲ舉クルニ努メ尙農閑期ヲ撰ヒ樞要ノ地ニ於テ講演會ヲ開カムトス

本會機關雜誌三重斯民ハ毎月三千部以上ヲ刊行シテ各官衙官公吏市町村部會支會員、在郷軍人、青年會、處女會、神職、寺院或ハ其ノ他ノ組合員等ニ實費ヲ以テ分頒シ所期ノ目的貫徹ヲ期シツ、アリ

三重縣斯民會大正十三年度歳入歳出豫算

縣補助金	五、五〇〇、〇〇〇
前年度繰越金	六二六、〇〇〇
雜收入	二〇、〇〇〇
合計	六、一四六、〇〇〇
事務費出	四〇〇、〇〇〇

總會費	一、四〇〇、〇〇〇
表彰費	四三〇、〇〇〇
通俗講演會費	二〇〇、〇〇〇
講話會費	一、八〇〇、〇〇〇
三重斯民編輯部補助金	一、七〇〇、〇〇〇
斯民講話室費	一〇〇、〇〇〇
豫備費	一一六、〇〇〇
合計	六、一四六、〇〇〇

一六二

三重縣斯民會規則

- 第一條 本會ハ教育勸諭戊申詔書ノ御趣旨ヲ遵奉シテ精神訓育ヲ獎メ廣ク道德經濟ノ調和地方自治ノ作興教育産業ノ發達其他一般地方ノ改良ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會員ハ宗教ノ如何ヲ問ハス職業ノ異同ニ論ナク一ニ地方改良ノ精神ヲ以テ共同助力シ本會ノ目的ヲ達スルコトヲ期スヘシ
- 第三條 本會員ハ左ノ個條ヲ以テ規模ト爲スヘシ
- 一、忠君愛國ノ思想ヲ涵養シ公共心ノ作興ヲ圖ルコト
  - 二、誠實ヲ以テ本ト爲シ勤勉事ニ當リテ能ク分度ヲ守リ公益ノ爲ニ盡カスルコト

三、協同一致ヲ以テ公私ノ事ニ當リ立德致富ノ實ヲ擧ケテ相互ニ克ク助成救濟ヲ爲スコト

四、自治ノ改良民風ノ改善ニ盡カスルコト

第四條 本會ニ於テ遂行スヘキ事業ノ概目左ノ如シ

- 一、地方公共團體ト聯絡ヲ取り團體ノ事業ヲ幫助シ庶般地方改良ノ方法ヲ講スルコト
  - 二、善行良風ヲ勸奨シテ公共ノ事ニ盡カスル者一意専心其ノ業務ニ精勵スル者其ノ他善行者篤志者ノ類ヲ旌表スルコト
  - 三、公益慈善ノ事業ヲ援助スルコト
  - 四、講話會ニ依リテ社會教育ノ作興ヲ圖ルコト
  - 五、道德經濟自治民政教育産業ニ關スル事項ヲ研究シ若ハ之ニ關シ實行ヲ期スルコト
  - 六、前各項ノ外衛生其他本會ノ目的ヲ達スルカ爲ニ必要ト認ムル事項
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク但シ會長ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトアルヘシ
- 會長一名、副會長三名、顧問若干名、評議員若干名、講師若干名、理事長一名、理

事若干名、地方幹事長一名、地方幹事若干名、書記若干名

第六條 會長ハ三重縣知事ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ役員ハ會長之ヲ囑託ス  
官職又ハ名譽職ヲ負フルモノニシテ役員ニ囑託セラレタル者ハ退職ニヨリ當然役員  
ノ資格ヲ失ヒ其他ノ役員ハ任期ヲ三ケ年トス

第七條 入會セントスルモノハ住所氏名職業ヲ記シ本會ニ届出ツヘシ  
會員ニシテ本會ノ体面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ理事會ノ決議ヲ經テ之ヲ除  
名スルコトアルヘシ

第八條 本會ハ金品ノ寄附ヲ受納スルコトヲ得

第九條 各郡市ニ部會各町村ニ支會ヲ設ク

部會及支會ノ規則ハ各々其ノ定ムル處ニ依ル

第九條ノ一 部會長及支會長ハ會長之ヲ囑託シ其ノ他ノ役員ハ部會長又ハ支會長ノ推薦  
ニ依リ會長之ヲ囑託ス但シ支會ノ役員ヲ推薦スル場合ハ部會長ヲ經由スヘシ

第十條 部會及支會ヲ設置シタルトキハ會則ヲ添ヘ役員ノ氏名ヲ本會ニ届出ツヘシ

第十一條 部會及支會ヲ開會セントスルトキハナルヘク開會期日凡ソ一週間前ニ左ノ事  
項ヲ本會ニ届出ツヘシ  
一、開會ノ場所及日時

二、演題及講演者ノ氏名

三、其他舉行事項ノ概略

第十二條 本會規則ハ會長ノ發案ニ基キ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得ヘ  
シ

第十三條 本會ノ施行ニ必要ナル細則ハ理事會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

新 民 會 處 務 規 程

第一條 會長ハ會務ヲ統轄シ會ヲ代表ス

第二條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第三條 顧問ハ會長ノ諮問ニ應ヘ重要ノ會ニ參與ス

第四條 評議員ハ重要ノ議事ニ干與シ會則ノ實行ヲ督勵ス

第五條 講師ハ會長ノ命ヲ承ケ巡廻講話ニ從事ス

第六條 理事長ハ會長ノ命ヲ承ケ理事會ノ議事ヲ準備ス

第七條 理事ハ會長ノ命ヲ承ケ理事長ヲ補佐シ會務ヲ分掌ス

第八條 地方幹事長ハ會長ノ命ヲ受ケ部會及支會ヲ監督シ會務ノ取締ニ任ス

第九條 地方幹事ハ地方幹事長ヲ補佐シ地方ノ會務ヲ分掌ス

第十條 書記ハ理事長ノ監督ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十一條 評議員ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一、總會及臨時會開催ニ關スルコト
- 二、總會ニ提出スヘキ議案ヲ審査シ之ニ意見ヲ述フルコト
- 三、旌表者ヲ審査決定スルコト
- 四、他ノ事業ヲ援助スルコト
- 五、其他會長ニ於テ重要ト認メタル事項

第十二條 理事會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一、金品ノ保管ニ關スルコト
- 二、寄附ヲ受諾スルコト
- 三、巡廻指導ノ方法ニ關スルコト
- 四、講話會ニ關スルコト
- 五、支會及部會ノ會則ヲ審査スルコト
- 六、評議員會ニ提出スヘキ議案ヲ審査スルコト
- 七、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十三條 急施ヲ要スル事件ニシテ評議員會ヲ召集スルノ遑ナキトキハ會長ハ理事會ヲシテ代之ヲ議決セシムルコトヲ得

第十四條 評議員會及理事會ハ議長之ヲ召集ス議長ハ會長ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 評議員會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但至急ヲ要スル場合ハ此限リニ非ス

第十六條 會議ノ議決ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 副會長ハ評議員會及理事會ニ理事長及理事ハ評議員會ノ議事ニ干與シ意見ヲ述フルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第十八條 會長ハ必要ト認ムル場合ハ口頭ヲ以テ臨時講師ヲ囑託スルコトヲ得

第十九條 會長ハ副會長及理事ノ内專任者ヲ定メ緊急又ハ輕易ナル事項ヲ便宜處理セシムルコトアルヘシ

第二十條 發送文書ハ總テ會長ノ承認ヲ經ヘシ但事ノ輕易ナルモノハ會長ノ承認ヲ經理事長又ハ理事ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 發送及收受文書ハ書記之ヲ掌ル

第二十二條 書記ハ會長ノ承認ヲ經テ事務ノ分擔ヲ定ムルコトヲ得

三重縣斯民會那部會費補助規程

第一條 縣ハ三重縣斯民會ノ趣旨目的ヲ達成スルニ資スヘキ那部會ノ事業ニ對シ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ毎年三月末日迄ニ翌年度ノ事業計畫書並  
收支豫算書ヲ添ヘテ知事ニ申請スヘシ

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタルモノハ翌年四月末日限り前年度ノ收支決算ヲ知事ニ  
報告スヘシ

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ漫ニ其ノ計畫ヲ變更シ若ハ豫定ノ事業ヲ  
遂行セザルトキハ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ但豫メ縣ノ認  
可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

### 三、地方改善

本縣ニ於ケル標記該當ノ町村數ハ一一五地區數ハ二一七ニシテ現住戸數七、〇八九、現  
住人口三八、三八三ノ多キヲ算スルヲ以テ縣ハ夙ニ之カ改善ニ意ヲ用ヒ明治三十九年慈  
惠救濟基金ヨリ生スル收入ヲ以テ慈惠救濟員ヲ設置シテ之カ改善ノ任ニ當ラシメ、爾來  
郡市長、警察官署長、教育家、宗教家或ハ篤志家等ト協力シ精神、物質兩方面ヨリ自覺  
的進歩ヲ促シ更ニ大正三年以來職業改良及地方民衆トノ融和接近ヲ圖ル一助トシテ優良  
ナル兒童ヲ募集シ之ヲ縣下ニ於ケル篤志適良ノ工業者ニ委託シテ徒弟ヲ養成シ既ニ今日  
ニ至ル迄七十五名ヲ津市、四日市市、桑名町及鳥羽町ニ於ケル大工、左官、石工、指物

職、ペイント職、鍛冶職、唐木細工等ノ徒弟ニ紹介セリ又大正八年來他府縣ニ於ケル優  
良町村ノ狀況ヲ實地ニ視察シ以テ自發的改善ノ機運ニ向ハシムルコトノ最モ有効ナルヲ  
認メ既ニ之ヲ試ムルコト前後四回、滋賀、奈良、京都(第一回)愛知、静岡(第二回)  
東京及神奈川(第三回)滋賀及京都(第四回)ノ府縣ヲ視察シ尙此ノ機會ヲ利用シ相互  
諧和ニ資セムカ爲一般篤志家、官公吏、宗教家、教育家等及此等婦人ヲモ參加セシメタ  
リ其ノ他主務課員、宗教家等ヲ各地ニ派遣シテ通俗講演ヲ試ミ大正八年七月津市ニ協議  
會ヲ開催シ大正十年三月中町村重立タル者百餘名ヲ縣會議場ニ集メテ懇談會ヲ開催  
セリ又前記ノ社會事業補助規程ニ依リ毎年壹萬五千圓内外ノ補助金ヲ左記ノ事業ニ交付  
シ改善事業ヲ獎勵シ大正十年度ニ於テ更ニ地方改善指導員一名慈惠救濟員二名ヲ増員シ  
テ斯業ノ改善ニ努力シツ、アリ又大正十二年度ヨリ國庫支辨ヲ以テ育英獎勵事業ヲ開始  
シ現ニ其ノ補給ヲ受クルモノ十三人(中等學校十二人專門學校一人)アリ改善地區整理  
事業モ亦勿論ニ附スヘカラサルヲ以テ松阪町ハ大正十二年度ヨリ向十ヶ年ノ繼續事業ト  
シテ日野町二丁目地區整理ヲ實行シ政府ヨリ約拾貳萬圓ノ補助ヲ受ケ町ヨリ參萬七千四  
百拾圓ヲ支出シテ之カ完成ヲ期セムトス右ノ外融和促進ニ關シテハ大正十二年三重縣社  
會事業協會ニ融和部ヲ設ケ國庫ノ補助ヲ得テ差別撤廢融和促進上遺漏ナキヲ期シツ、ア

補助セラルヘキ事業ノ種類

- 一、教育ニ關スル特別ノ施設
  - 二、講習講話會ノ開設
  - 三、産業ノ獎勵又ハ其ノ改良ニ關スル施設
  - 四、移住又ハ出稼
  - 五、集會所ノ新設又ハ改良
  - 六、共同浴場ノ新設又ハ改良
  - 七、共同食堂ノ新設又ハ改良
  - 八、共同遊戯場ノ新設又ハ改良
  - 九、托兒場ノ新設又ハ改良
  - 一〇、墓地火葬場ノ新設又ハ改良
  - 一一、井戸、上下水道及便所新設又ハ改良
  - 一二、トラホーム治療ニ關スル設備
  - 一三、住宅改良
  - 一四、其他地方改善上必要ト認ムル施設
- 三重縣告示第三百五十二號

職業改善徒弟養成規程左ノ通定ム

大正十三年七月十八日

三重縣知事 千葉 了

職業改善徒弟養成規程

第一章 徒弟

第一條 徒弟ハ左ノ各號ニ該當スル者ノ中ニ就キ郡市長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ決定ス

一、職業改善ノ必要アリト認ムル地方ノ者

二、身體強健ニシテ品行方正ナル者

三、年齢十六歳未満ニシテ義務教育ヲ終了シタル者

郡市長ハ徒弟推薦書ニ知事ノ指定シタル醫師ノ身體検査書(第一號様式)ヲ添付スヘシ

第二條 徒弟タルコトノ決定ヲ受ケタル者ハ誓約書(第二號様式)ヲ提出スヘシ

第三條 徒弟ノ修得スヘキ技藝ノ種類ハ本人ノ希望ヲ參酌シテ知事之ヲ定ム

第四條 徒弟ハ知事ノ選定シタル師匠ト同居シ其ノ指揮ニ從ヒ滿五年間技藝ヲ修得スヘシ但シ獨立シテ職業ニ就キ難キ場合ニ在リテハ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ  
徒弟ハ修得期間中故ナクシテ師匠ヲ變更シ若ハ徒弟ヲ辭スルコトヲ得ス

第五條 從弟ニハ初年度ノ被服費ノ一部及自宅ヨリ師匠ノ住宅ニ到ル迄ノ旅費ヲ支給ス

第六條 徒弟左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ徒弟ヲ取消シ前條支給額ノ一部又ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一、成業ノ見込ナキトキ

二、知事又ハ師匠ノ指示ニ反スルトキ

三、不正ノ行爲アリタルトキ

四、正當ノ事由ナクシテ徒弟ヲ辭シタルトキ

第七條 技藝ヲ修得シタル徒弟ニシテ成績優良ナル者ニハ就業手當若ハ就業ニ必要ナル器具ヲ支給スルコトアルヘシ

第二章 師匠

第八條 師匠ハ知事之ヲ選定ス

第九條 師匠ニハ徒弟養成費トシテ初年度及次年度ニ限リ手當ヲ支給ス

第十條 師匠ハ徒弟ニ對シ被服食料其ノ他必要ナル金品ハ勿論其ノ技藝習熟ノ程度ニ應シ相當ノ給與ヲ爲スヘシ

第十一條 師匠ハ徒弟ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項アルトキハ津市ニ在リテハ知事其ノ他ニ在リテハ當該郡市徒弟監護ニ報告スヘシ

一、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ休業シタルトキハ其ノ日數

二、家庭ニ歸還モシメタルトキハ其ノ用件並日數

三、素行修ラス若ハ不正行爲アリタルトキハ其ノ事由

四、其ノ他養成上必要ト認ムル事項

第十二條 師匠ハ徒弟ノ成績ノ概要並給與シタル金品ノ數量ヲ具シ毎年十二月三十一日限リ知事ニ報告スヘシ

第三章 徒弟監護

第十三條 郡市(津市ヲ除ク)ニ徒弟監護ヲ置キ郡市ノ官吏吏員中ヨリ知事之ヲ囑託ス徒弟監護ニハ手當ヲ支給ス

第十四條 徒弟監護ニハ知事又ハ郡市長ノ指示ヲ受ケ徒弟及師匠ノ保護監視ニ從事シ隨時其ノ狀況ヲ報告スシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス  
第一號様式

身體 檢 査 書

住 所

氏 名



生年月日

- 一、體格
  - 一、體重
  - 一、視力
  - 一、聽力
  - 一、呼吸器
  - 一、皮膚
  - 一、既往現在疾病又ハ畸形
  - 右ノ通相違無之候也
- 一、身長
  - 一、胸圍
  - 一、色盲眼疾
  - 一、耳鼻疾
  - 一、神経系
  - 一、言語

年月日

検査醫師

第二號様式

誓約書

何某儀今般徒弟ニ御選定相成候ニ付テハ左ノ各項ヲ確守可致候

- 一、修業中ハ誠實從順ニ師匠ノ指揮ニ從ヒ徒弟ノ慣習ヲ恪守シ技藝ノ修得練磨ニ心掛ク

二、修業年限ハ大正 年 月 日迄トシ其ノ期間ハ如何ナル事情アルモ徒弟ヲ辭セサル

コト

三、職業修得ノ上ハ郷土ノ職業改善ニ努力スルコト

四、第二項ノ年限ニ達スルモ縣ニ於テ技藝未熟ナリト認めラレ更ニ年限ヲ延長セララル

コトアルモ異議ヲ申立サルコト

五、職業改善徒弟養成規程第六條ニ依リ又ハ前各項ニ違背シタル爲徒弟ヲ取消サレタル

場合ニ於テ既ニ受ケタル諸給與ノ返納ヲ命セララルコトアルモ異議ヲ申立サルコト

六、前項ノ場合ニ於テ戸主其ノ義務ヲ果ササルトキハ保證人ハ連帶責任ヲ以テ其ノ義務

ヲ履行スルコト

右誓約ノ證トシテ保證人連署誓約書差入候也

年月日

住所

本人氏

戸主氏

生年月日

生年月日

住 所	保 證 人	年 齡	名 印
住 所	保 證 人	年	名 印

### 四、釋放人保護

#### ▼三重縣保護會

津市上辨財町津與二、七〇〇番地  
 釋放人保護  
 財團法人  
 會長山岡國利外理事七名、幹事四名  
 明治二十七年九月三重縣監獄署教誨師ノ主唱ニ依リ免囚保護會ヲ創立シ明  
 治三十四年三月三重授業院ト改稱シテ同會ノ事業ヲ繼承シ更ニ大正二年三

### 現 況

月三重縣保護會ヲ組織シ三重授業院ヲ其ノ事業部トシ大正九年六月財團法  
 人ニ組織ヲ改メ上野、四日市、宇治山田、松阪ニ支部ヲ置ク  
 大正十三年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲メ金六百圓ヲ補助ス而シテ現在直接  
 保護人員八人間接保護人員四百五十一人ニシテ大正十三年度豫算左ノ如シ  
 三重縣保護會大正十三年度歲入豫算

歲 入	歲 出
一、前年度繰越金	一、九九〇、〇〇〇
二、本年度收入額	五二〇、〇〇〇
合 計	三、〇二五、〇〇〇
一、事務費	一、九九〇、〇〇〇
二、給與費	五二〇、〇〇〇
三、作業費	五六五、〇〇〇
四、積立金	一五〇、〇〇〇
合 計	三、二二五、〇〇〇

# 第七雜

▼如雲園

位置 宇治山田市大字中之切町

無料休憩

大阪市東區和泉町帶谷傳三郎

理事一名事務員三名

職員

敬神崇祖忠君愛國ノ精神ヲ涵養シ一面神宮參拜獎勵ノ目的ヲ以テ大正八年

沿革

八月宇治山田市大字中之切町ノ高地ヲ開墾シ一般團體參宮者無料休憩所並

貴賓休憩所等ヲ建築シ大正九年八月竣工開園ス

現況

常ニ湯茶ヲ設備シ登園者ノ接待ニ充テ傍ラ思想善導ニ關スル講演會ヲ開催

シ夏期林間學舎ヲ開キ其ノ他各種集會等ニ利用セシム皇族以下貴紳其ノ他

一般登園者年々増加シ過去三年間ニ於ケル數ハ左ノ如シ

大正十年 約 八五、七〇〇人

大正十一年 同 九一、三〇〇人

大正十二年 同 一一八、五〇〇人

右ニ要スル大正十三年度豫算左ノ如シ

一、登園者接待費	二四、〇〇〇、〇〇〇
一、維持費	一一、〇〇〇、〇〇〇
合計	三六、〇〇〇、〇〇〇

以上ハ本縣ニ於ケル社會事業施設ノ概要ナリ之ヲ他府縣ニ比スレハ其ノ施設未タ十分ナ  
 ラス其ノ内容不備ナリト雖年ヲ遂ヒテ順調ニ發達シツ、アルハ喜フヘキ所ナリトス然レ  
 トモ世運ノ進轉ハ急激ニシテ社會ノ變遷ハ著大ナルヲ以テ今後益々本施設ノ普及徹底ヲ  
 要スルモノアルヘキハ論ヲ俟タス希クハ縣民諸氏一層斯業ノ實際ヲ理解シ爲政者ト協力  
 シテ社會全般ノ福祉ヲ増進スルニ努ムコトヲ

大正十三年九月十二日印刷  
大正十三年九月十五日出版

# 三重縣廳

三重縣廳  
三重縣津市丸之内二番地

印刷者 加藤三四郎

三重縣津市丸之内四番地

印刷所 伊勢新聞社活版部

大正十三年九月十五日